

長	野	県		
埋	蔵	文	化	財
七	ン	タ	一	
年	報		31	

2014

一般財団法人長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター

長野県埋蔵文化財センター年報31

2014

一般財団法人長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター



中野市 南大原遺跡出土土器



長野市 塩崎遺跡群遠景



長野市 浅川扇状地遺跡群出土土器



立科町 新城峰遺跡遠景



佐久市 洞源遺跡製鉄炉跡



飯田市 鬼釜遺跡出土土器

目 次

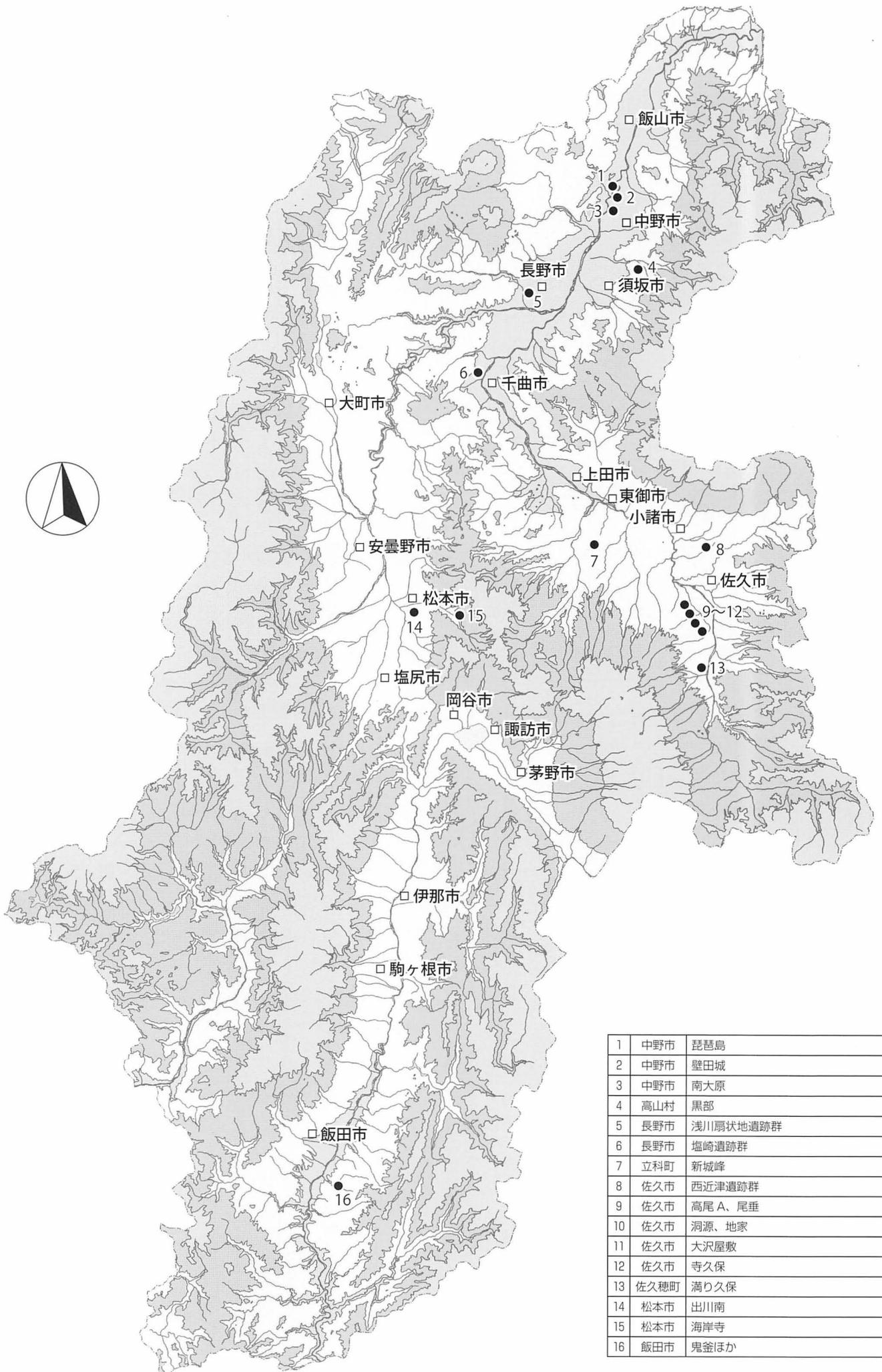
口絵写真

- ・中野市 南大原遺跡出土土器
- ・長野市 塩崎遺跡群遠景
- ・長野市 浅川扇状地遺跡群出土土器
- ・立科町 新城峰遺跡遠景
- ・佐久市 洞源遺跡製鉄炉跡
- ・飯田市 鬼釜遺跡出土土器

目 次

I	2014年度の埋蔵文化財センター	1	IV	普及公開活動の概要	
				(1) 国補事業の概要	30
II	発掘作業の概要	2		(2) 展示会・講演会	33
	(1) 壁田城跡	3		(3) 現地説明会	33
	(2) 黒部遺跡	4	V	研修等の概要	
	(3) 浅川扇状地遺跡群	5		(1) 講師招聘などによる指導	34
	(4) 塩崎遺跡群	8		(2) 全埋協等への参加	34
	(5) 出川南遺跡	12		(3) 研修および資料調査	35
	(6) 海岸寺遺跡	14		(4) 学会・研修会などでの発表	35
	(7) 新城峰遺跡	16		(5) 市町村・関係機関などへの協力	35
	(8) 洞源遺跡	18		(6) 学校関係への協力・指導	36
	(9) 大沢屋敷遺跡	21		(7) 資料の貸し出し	37
	(10) 地家遺跡	23	VI	組織・事業の概要	38
	(11) 満り久保遺跡	23		(1) 組 織	
	(12) 尾垂遺跡	24		(2) 職 員	
III	整理作業の概要	25		(3) 事 業	
	(1) 琵琶島遺跡	26			
	(2) 南大原遺跡	27			
	(3) 鬼釜遺跡ほか	28			
	(4) 西近津遺跡群・地家遺跡	29			

奥付



1	中野市	琵琶島
2	中野市	壁田城
3	中野市	南大原
4	高山村	黒部
5	長野市	浅川扇状地遺跡群
6	長野市	塩崎遺跡群
7	立科町	新城峰
8	佐久市	西近津遺跡群
9	佐久市	高尾 A、尾垂
10	佐久市	洞源、地家
11	佐久市	大沢屋敷
12	佐久市	寺久保
13	佐久穂町	満り久保
14	松本市	出川南
15	松本市	海岸寺
16	飯田市	鬼釜ほか

図1 平成26年度調査・整理対象遺跡

I 2014年度の事業概要

本年度は10件の開発事業にかかる発掘・整理作業を受託し、速報展等の自主事業を行った。

発掘作業のうち、調査の対象となった遺跡は14ヶ所、総面積33,784㎡で、継続事業の中部横断自動車道関連事業、一般国道18号坂城更埴バイパス関連事業などのほかに、本年度より新たに県関連事業の3遺跡について発掘作業に着手した。また、7遺跡の整理作業を進め報告書1冊を刊行した。事業費総額は666,334千円で前年度とほぼ同規模である。

以下、発掘作業・整理作業の成果を時代ごとに概観してみよう。

■**旧石器時代** 平成21年度から断続的に調査している満り久保遺跡（佐久穂町）では、黒曜石製の尖頭器が出土したものの、石器集中が検出されなかった。平成24年度、始良丹沢火山灰降灰以前、25,000年をさかのぼる石器群が発見された高尾A遺跡（佐久市）の調査でも、遺構・遺物は検出されていない。

■**縄文時代** 壁田城跡（中野市）、黒部遺跡（高山村）、大沢屋敷遺跡（佐久市）、洞源遺跡（佐久市）などで、早期から後期の土器が出土している。大沢屋敷遺跡では、過去の調査成果と同様に土坑が検出されている。

整理作業を進めている鬼釜遺跡（飯田市）では中期後半期の複数個体を利用した土器敷炉の整理が進み、天竜川左岸では2例目の調査事例であることがわかってきた。

■**弥生時代** 浅川扇状地遺跡群（長野市）では、昨年度、2段の口縁を持つ壺が出土した溝跡の追加調査がなされ、一辺が東西17.5mを測る方形周溝墓の周溝であると確認された。また、2段の口縁を持つ壺は、昨年度に続き3点目が発見されている。壺の近くからは、北陸地方の甕の形態を取り入れ、箱清水式の壺の調整法を踏襲した赤色塗彩を施した折衷的な土器が出土し、注目される。

塩崎遺跡群（長野市）では、遺構が中期前葉～中葉から確認され、竪穴住居のほかに完形土器を

埋納した土坑、礫床木棺墓、木棺墓、土坑墓等が調査された。後期に入ると遺構密度は高くなる。遺物としては、管玉、小型勾玉、銅釧、ガラス小玉、鉄鏃、鉄斧等も出土している。

整理作業を進めている南大原遺跡（中野市）では、土ごと取上げた土器の解体を行い、2個体の甕が重なって埋没していたことが判明し、土器棺の可能性を考えている。後期の鉄製品の出土した竪穴住居跡では、床面に炉以外に複数の焼土跡が確認されていたが、調査区全体で出土した台石8点と敲石47点を含め、鉄製品の加工等に関わった可能性を検討している。

■**古墳時代** 浅川扇状地遺跡群では、竪穴住居跡6軒、溝跡15条等が確認されている。出川南遺跡（松本市）では、竪穴住居跡1軒が調査された。

塩崎遺跡群では千曲川寄りの自然堤防端部付近に古墳が点在していたことがわかってきた。昨年のようなウマの骨が出土することはなかったが、埴輪と考えられる壺形の土器、完形の壺が出土している。

■**古代** 洞源遺跡（佐久市）では、佐久地域では初見となる平安時代の製鉄炉跡が調査された。作業場跡と考えられる竪穴や一定の範囲に分布する炭化材など、当時の鉄生産のあり様を考える際の新知見が得られている。

塩崎遺跡群では、7～8世紀前半頃の竪穴住居跡が調査区の広範囲で検出され、奈良時代の円面硯・空中円面硯なども出土している。

■**中・近世** 出川南遺跡、海岸寺遺跡（松本市）、新城峰遺跡（立科町）などで中世以降の遺構・遺物が出土している。

新城峰遺跡は当初、城跡の施設等が発見されると想定されたが、結果、中世後半期における短期間に利用された集落跡が調査され、新たな所見が得られた。また、壁田城跡では、遺構・遺物ともに確認されなかった。

浅川扇状地遺跡群から出土した「鴨徳利」は小杉窯（富山県）で製作された可能性が高く、当該期の流通を考える上で貴重な資料となった。

Ⅱ 発掘作業の概要

遺跡名	所在地	事業名	面積㎡	調査期間	時代・内容	主な遺物		
へき たじょうせき 壁田城跡	中野市	県道豊田中野線	800	6月2日～ 7月15日	遺物集中域	縄文・弥生、古代：土器、須恵器、土師器、石器		
くろべ 黒部	高山村	県営中山間総合整備	2,227	4月8日～ 5月30日	なし	縄文・古代：土器、石器		
あさかわせんじょうち 浅川扇状地	長野市	県道高田若槻線	2,572	4月7日～ 11月26日	弥生～古代：堅穴住居跡。弥生～中・近世：溝跡。弥生～中世：土坑	弥生～中・近世：土器、須恵器、土師器、陶磁器（鴨徳利ほか）。弥生、古代～中・近世：石鏃、磨製石斧、砥石、石臼、五輪塔ほか。中世：鎌、銭貨ほか。古代～近世：獣骨		
しおぎき 塩崎	長野市	坂城更埴バイパス	5,000	4月10日～ 12月24日	弥生～古代：堅穴住居跡、掘立柱建物跡。古墳～平安：溝跡。弥生～平安：墓跡。弥生～中世：土坑。不明：焼土跡	縄文～中世：土器、陶磁器。弥生～古代：石器（石鏃、磨製石包丁、管玉、勾玉、白玉、紡錘車ほか）、土製品（ミニチュア土器、カマド材、土鍾ほか）、金属製品（鉄斧、銅釧、鉄鏃、紡錘車ほか）。その他（ガラス小玉、ヒスイ・緑色凝灰岩原石剥片、鉄滓、骨ほか）		
いでがわみなみ 出川南	松本市	(都)出川双葉線	1,460	4月10日～ 8月29日	古代：堅穴住居跡。中世：掘立柱建物跡、堅穴状遺構。古墳・中世：土坑。中・近世：ピット、溝跡	縄文～古代、近世：土器、陶磁器。弥生：石鏃。中世：鉄滓		
かいがんじ 海岸寺	松本市	通常砂防	5,200	9月1日～ 11月11日	古代：溝跡。平安～近世：土坑、焼土跡。中世：火葬施設。中・近世：テラス状遺構。近世：石垣	縄文：土器・石器。古代：土器、灰釉陶器。中世：銭貨、人骨。中・近世：内耳鍋、陶磁器		
あらしょうみね 新城峰	立科町	宇山バイパス	4,664	7月22日～ 11月13日	古代・中世：土坑。中世：堅穴状建物跡、掘立柱建物跡、溝跡、土器集中、礫集中	古代～中世：土師器、内耳鍋、鉄釉皿、砥石、銭貨ほか		
おおさわやしき 大沢屋敷	佐久市	中部横断自動車道	2,328	4月9日～ 6月10日 10月16日 ～11月25日	縄文：土坑	縄文、古代：土器、須恵器、磨製石斧、石鏃ほか		
たかお 高尾 A			440	5月28日～ 7月1日	なし	なし		
ちけ 地家			80	7月7日～ 7月31日	古代：土坑	古代：土師器、須恵器。中・近世（銭貨）		
てらくぼ 寺久保			2,970	6月30日～ 7月22日	なし	なし		
どうげん 洞源			3,800	8月4日～ 11月6日	古代：製鉄炉跡、焼土跡、堅穴状遺構跡、炭化材分布地。古代～中世：土坑	縄文、古代、中世：土器、須恵器、土師器、灰釉陶器、内耳鍋。縄文、古代：石鏃、敲石ほか。その他：鉄滓、羽口		
おだれ 尾垂 (確認)			2,140	11月21日～ 12月12日	古墳～古代：堅穴住居跡、土坑	縄文、古墳～中世：土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、青白磁、石鏃、羽口		
まはりくぼ 満り久保			佐久穂町		103	4月14日～ 5月27日	なし	旧石器～縄文：土器、尖頭器、石鏃

へきだじょうせき (1) 壁田城跡

(県道豊田中野線関連)

所在地及び交通案内：中野市壁田

長野県北信合同庁舎から南西約 1.5 km。

遺跡の立地環境：千曲川右岸の長丘丘陵上（標高 381 m 付近）に立地する。調査地点は、丘陵上、及び東側山裾部、低地部（標高 344 m 付近）。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
26.6.2～7.15	800㎡	黒岩 隆 鶴田典昭

検出遺構

遺構の種類	数	時期
遺物集中域	1	古代

中世山城の確認調査

壁田城跡は、川中島合戦の時、武田軍の前線基地として重視されたといわれている。調査区は城の主郭から南へ約 650 m 離れた東側の傾斜地にあたり、わずかな平場が数ヶ所点在していたため、防御施設等の存在が予想された。なお、城跡についての踏査が行われているものの、発掘調査歴はない。

平成 27 年度以降の発掘調査に向けて、今年度は遺跡の内容を確認するため、トレンチ調査を 800 ㎡ 実施した。

平場の調査では、明治期から昭和初期の耕作地（果樹園）としての造成改変が認められ、中世末期から近世初頭の遺構、遺物の出土がなかった。

調査区北側にあたる東側の山裾部に設定したトレンチからは、縄文時代早期の押型土器片が 1 点出土した。山裾部のなかでも、より低い一帯低地部では、黒色粘土層の上面から古代とみられる土器片の集中が認められ、遺構の存在が予想された。壁田城跡とは別時期の遺物、遺構が発見され



図 2 壁田城跡の位置 (1 : 50,000 中野)

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器	縄文早期（楕円押型土器）、弥生後期、古代（土師器・須恵器）

たことから、遺跡を把握する中野市教育委員会及び長野県教育委員会に概要を報告し、遺跡の取り扱いについて指示を受けることとした。

今後の発掘調査

確認調査の結果から、平成 27 年度に壁田城跡にかかわる本格的な調査の必要はないと判断した。

一方、東側山裾部及び低地部で確認された縄文時代および古代の遺物が出土したヶ所については、中野市教育委員会により周知の埋蔵文化財包蔵地として登録されている「ねごや遺跡」範囲を拡大し、壁田城跡とは別の遺跡として扱うこととした。平成 27 年度は改めて文化財保護法の手続きをおこない、保護措置をとることとなっている。



図 3 調査区中央斜面部のトレンチの掘削状況

(2) 黒部遺跡

(県営中山間総合整備事業)

所在地及び交通案内：高山村大字高井

高山村役場から南東約 1.5 km。

遺跡の立地環境：樋沢川左岸の扇状地に立地する。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
26.4.8～5.30	2,227㎡	廣瀬昭弘 大澤泰智

検出遺構

なし

遺跡縁辺部の調査

黒部遺跡は長野盆地北部を見下ろす樋沢川左岸の扇状地扇頂部にあり、紫子菰山(しねはぎやま)北側山麓に立地する。標高は675～688 mを測る。

遺跡では昭和62年、今回の調査地点の南西側で発掘調査が実施され、竪穴状遺構や土坑から、縄文時代早期と平安時代の土器・石器が出土している。

調査は県営中山間総合整備事業に伴って拡幅・新設される農道部分の面的調査と、ほ場整備予定範囲の確認調査を実施した。

農道部分の調査では石鏃1点とわずかな土器小片が出土したのみで、遺構が検出されなかった。



図5 黒部遺跡の位置 (1:50,000 中野)

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・石器	縄文、平安、石鏃

確認調査範囲では、幅2mほどのトレンチを22本設定した。状況は、大半が現耕作土直下で大型の礫を含んだ黄褐色土の地山となるが、部分的に浅い谷状に凹むヶ所も認められた。遺構は確認されず、遺物も一部のトレンチで土器小片が出土したのみであった。

今回の調査範囲は遺跡の北東隅にあたり、樋沢川が形成する扇状地の扇頂部となる。調査では尾根状の高まりと浅い谷状の地形が組み合わさった扇状地の地形環境がうかがい知れた。

土層の堆積状況や遺物の出土状況などの所見から、今回の調査範囲は竪穴住居跡などの遺構が存在しない、遺跡縁辺部の状況が把握されたものと考えられる。



第4図 遺跡遠景 (北西から)



第6図 トレンチ掘削状況 (北西から)

あさかわせんじょうち いせきぐん
(3) 浅川扇状地遺跡群

(県道高田若槻線関連)

所在地及び交通案内：長野市桐原・吉田

長野電鉄桐原駅から東に約 200 m。

遺跡の立地環境：飯縄山を水源とする浅川によって形成された扇状地上に立地する。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
24.4.7 ~ 11.26	2,572㎡	西 香子、廣田和穂、鈴木時夫、福井優希、大久保邦彦

検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴住居跡	29	弥生～古代
溝跡	24	弥生～中近世
土坑	213	弥生～中世

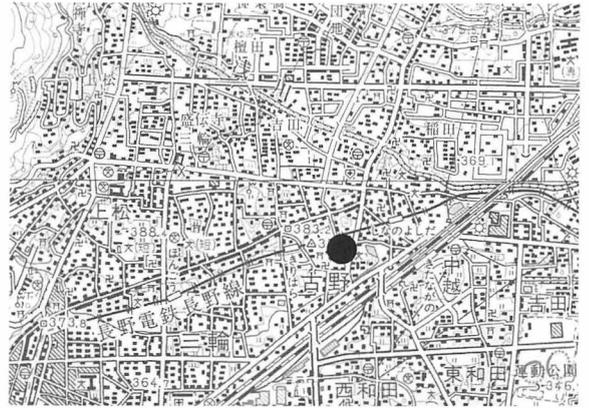


図7 浅川扇状地遺跡群の位置 (1:50,000)

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・陶磁器	弥生後期、古墳前・中期、古代、中・近世
石器・石製品	弥生（石鏃、磨製石斧、打製石斧ほか）、古代～中世（砥石、石臼、五輪塔ほか）
金属製品	中世（鎌、銭貨ほか）
骨	古代～近世（獣骨）



図8 調査区遠景（北から）中央の高いビルの前が北長野通り

平成 23 年度から開始した発掘調査も 4 年目となった。今年度は、事業地の中央付近を東西に横切る長野電鉄線の南側にあたる桐原地区（1 区・3 区・4 区）と、北側の吉田地区（5 区）で調査を行った。

桐原地区の調査では、弥生時代後期～平安時代の竪穴住居跡・溝跡などを確認し、吉田地区では平安時代の竪穴住居跡などを確認した。

弥生時代

遺構は、竪穴住居跡 4 軒、溝跡 1 条などが検出されている。竪穴住居跡はいずれも桐原地区で確認されており、出土した土器から後期箱清水式期に帰属する。

溝跡は昨年度、長野電鉄線の南側で調査された二段の口縁を持つ壺が出土した溝跡である。今年度、南西と南東部分を追加調査し、一辺が東西 17.5 m を測る方形周溝墓の周溝であることが確



図 9 方形周溝墓（SD13）調査風景



図 10 二段の口縁を持つ壺出土状況

認された。出土した土器の特徴から、方形周溝墓の時期は弥生時代後期末から古墳時代前期初頭と考えられる。

周溝の南西隅からは、昨年度に続き三点目となる二段の口縁を持つ壺がほぼ完全な形で出土した。壺は横倒しの状態で出土し、底部には穿孔が認められた。壺の近くからは高坏や小形の壺・片口の台付鉢などがまとまって出土している。

注目されるのは、北陸地方の甕の形態を取り入れ、箱清水式の壺の調整法を踏襲した赤色塗彩が施された土器の出土である。この折衷的な土器の出土は、弥生時代から古墳時代へ移り変わる頃の葬送儀礼のあり方、他地域との文化的な交流を考える上で、貴重な発見となった。

古墳時代

遺構は、竪穴住居跡 6 軒、溝跡 15 条などが確認されている。

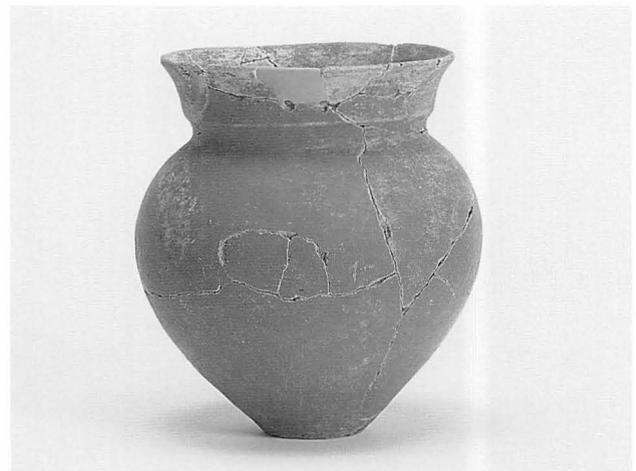


図 11 北陸地方の影響を受けた壺



図 12 弥生時代後期の竪穴住居跡

竪穴住居跡は4区で確認され、出土した土器などから前期に帰属すると考えられる。確認された竪穴住居跡は、今年度調査を行った4区全体にあり、この集落域が北長野通り近くの南側まで広がることが確認された。

溝跡は、出土した土器から中期に帰属すると考えられるが、桐原地区北側（3区）と南側（4区）では形状に違いが認められる。4区で確認された溝跡はそのほとんどが、幅0.2～1m程で北西から南東方向に直線的に延び、埋土の堆積状態などから自然流路の可能性が考えられる。

3区で確認された溝跡は幅1～3mで、ほぼ直角に曲がる。この溝跡は調査区外まで続いているため、全容は不明であるが、平面形が方形になる人工的な溝跡と推測される。溝跡の内側に埋葬施設の主体部等は認められず、埋土からの遺物も破片が多く、明確にその性格を決めることが難しいが、墓や祭祀場などを区画する溝跡の可能性も考えられる。

遺物としては、古墳時代前期～中期の土師器や須恵器・石製模造品などが出土した。

平安時代

遺構は、竪穴住居跡19軒、土坑などが確認されている。住居跡は、吉田地区（5区）、桐原地区北側（3区）で確認されている。住居跡の多くは出土した土器から平安時代前期に帰属する。

3区では昨年同様竪穴住居跡が重複してみつきり、東側調査区外へも集落域が広がっていることが確認された。しかしこの地区より南側の地区で



図13 まとまって出土した平安時代の坏

該期の遺構が確認されなかったため、この地区より南側では平安時代の遺構が希薄になってしまうことがわかった。

遺物としては、土師器や須恵器・緑釉陶器などが出土している。

中世以降

遺構は、井戸跡や溝跡・土坑などが検出されている。埋土からの遺物の出土がなく、明確な時期は不明であるが、遺構の重複関係などから中世以降の時期に帰属すると考えられる。

3区で確認された江戸時代末～近代に帰属すると考えている不整形の土坑からは、碗・徳利・燈明具などの陶磁器類が多量に出土した。このうち注目される資料としては鴨徳利があげられる。県内在地窯の製品には類例がなく、その整形方法などから、富山県の小杉窯で製作された可能性が高いと考えている。該期の陶磁器類の流通を考える上で貴重な資料である。なお、この土坑からは、近年調査例が増加している江戸時代の遺跡においても出土例が少ない、土製模造貨（天保通宝）の破片も出土している。

次年度の調査に向けて

来年度は、北長野通り周辺の当事業地南側の地区が主な調査地になる。今年度調査した古墳時代前期の集落域の南への広がりが検出されることが期待される。



図14 鴨徳利（江戸時代末）

(4) 塩崎遺跡群

(一般国道 18 号坂城更埴バイパス関連)

所在地及び交通案内：長野市篠ノ井塩崎字中条

JR 篠ノ井線稲荷山駅から南東約 1 km。

遺跡の立地環境：千曲川左岸の自然堤防（標高 358 m 付近）に立地し、調査区は自然堤防を横断するように位置する。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
26.4.10 ~ 12.24	5,000㎡	市川隆之 上田 真 伊藤友久 近藤尚義 川崎 保 内堀 団 大久保邦彦 高山いず美 高津希望

検出遺構

遺構の種類	数(H25 統)	時期
竪穴住居跡	174 (12)	弥生中期～平安
掘立柱建物跡	7 (1)	同上
溝跡	18	古墳～平安
墓跡	32	弥生中期、古墳中期、平安
土坑	638	弥生中期～中世
焼土跡	3	時期不明

複数時期の集落跡が重なる塩崎遺跡群

長野県埋蔵文化財センターでは平成 25 年度より塩崎遺跡群の発掘調査を開始し、本年度は前年度調査区北側 (1-2 区) と市道を挟んだ西側 (2-1・2-2 区) を調査した。

塩崎遺跡群は長野市教育委員会による調査で弥生～平安時代の長期に営まれた遺構密度の高い集落遺跡であることが明らかにされている。また、隣接する市道建設に伴う発掘調査では弥生時代中期中葉の木棺墓群が発見され、西日本と同じ形の木棺墓が当地域でも作られるようになったことが明らかにされた。

本年度に検出された遺構の内容は前年度とほぼ

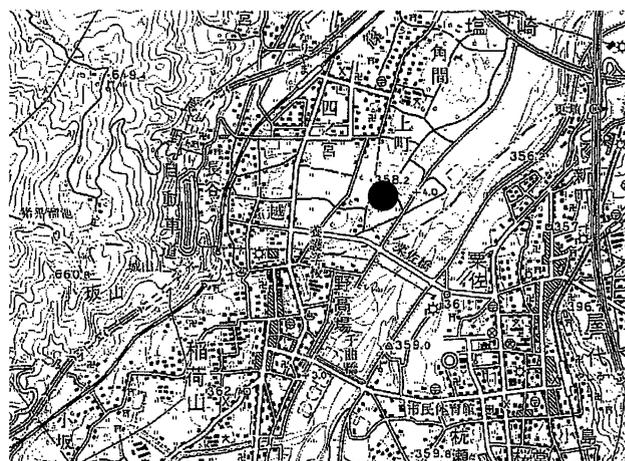


図 15 塩崎遺跡群の位置 (1 : 50,000 長野)

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器	縄文晩期、弥生中期～平安、中世 (陶磁器)
石器	弥生中期～平安 (石鏃、磨製石鏃・磨製石斧・磨製石包丁・打製石包丁・砥石など)
土製品	縄文晩期～弥生後期 (土製紡錘車・土偶)、弥生中期～奈良 (ミニチュア土器)、飛鳥 (カマド材)、奈良 (土錘)
石製品	弥生中期～古墳中期 (管玉・勾玉・白玉)、飛鳥・奈良 (紡錘車)
金属製品	弥生後期 (鉄斧、銅釧)、弥生後期・平安 (鉄鏃)、平安 (鉄製刀子)、奈良 (鉄製紡錘車)
その他	ガラス小玉、ヒスイ・緑色凝灰岩原石剥片、黒曜石、鉄滓、骨

同様ではあるが、新たに良好な弥生時代中期中葉の礫床木棺墓群や、自然堤防中央付近で埋土上部に洪水砂層が入る平安時代の竪穴住居跡が発見されている。この洪水砂層は、長野盆地南部の千曲川沿岸の沖積地遺跡で広く捉えられている仁和四年 (888 年) の洪水砂層に比定しうると考えられ

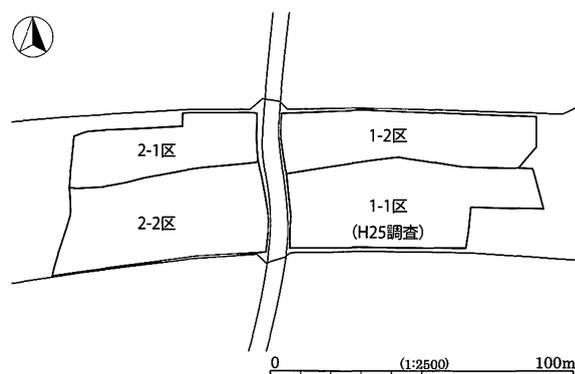


図 16 調査地区

る。この洪水砂層は耕作地改良に伴うかく乱が深く達していたため、基本土層で観察できず、本来は調査地点を覆っていたと考えられる。

また、洪水砂層の入る竪穴住居跡の遺構検出面は、洪水砂層堆積以前の平安時代前期までの遺構検出面である。洪水砂層堆積以後の遺構は井戸跡等の掘り込みの深い遺構以外は遺存していないと考えている。

なお、近接する篠ノ井遺跡群等では平安時代洪水砂層以前の噴砂が検出されているが、今回の塩崎遺跡群調査でも噴砂を検出している。土層観察からは、噴砂が耕作地改良のかく乱土層の直下まで立ち上がり、わずかに平安時代前期の遺構を切っていた。明確な時期は捉えられなかったが、弘化四年（1847年）の善光寺地震に由来する可能性も考えられる。以下、検出された遺構・遺物の概要を時期毎に述べる。

弥生時代中期の集落のはじまりと墓域の形成

2-1区の下層土層確認トレンチでは、検出面下層に砂・シルト層と厚い粘土層が確認されたが、遺物は出土しなかった。一方、検出面より縄文時代晩期と思われる石棒や土器が少量出土し、縄文時代晩期までに現在の自然堤防が形成され安定したと捉えられ、これまでの長野盆地南部の千曲川自然堤防の調査所見を裏付ける結果となった。

遺構は弥生時代中期前葉～中葉から確認され、平面円形の貯蔵穴と考えられる土坑、完形土器を埋納した土坑、礫床木棺墓、木棺墓、土坑墓等がある。竪穴住居跡は時期について検討中だが、存在しても数軒と推測される。貯蔵穴と思われる土坑（図17）、土器を埋設する土坑は散在的に分布し、後者は確認しえた2例が条痕文系土器であった。再葬墓か土器棺墓かは評価し得ていない。

木棺墓や土坑墓は比較的広い範囲で確認され、調査区全体に5地点に分布する。なかでも1-2区では遺存良好な礫を用いた木棺墓9基が群をなし、周囲にも木棺墓・土坑墓が分布する。

礫床木棺墓は、棺床に礫を敷き、側板外に礫を充填する構造で、底面に小口痕が認められた。棺

側板外の礫の配置には、長辺側板外側のみ、短辺側板外側のみ、全周囲に礫を充填する等の数種類がある。このほかSM1025のように長辺の側板外に礫を充填しながらも、棺床に礫が敷かれない、周囲を礫で充填することを重視したと考えられる例もある（図18）。礫床木棺墓からの出土遺物はわずかで、SM1026から完形土器2点、隣接するSM1027より管玉31個が出土している。

礫床木棺墓が数群に分かれることは複数の小集団により営まれたと考えられる。さらに調査区内



図17 弥生時代中期の貯蔵穴

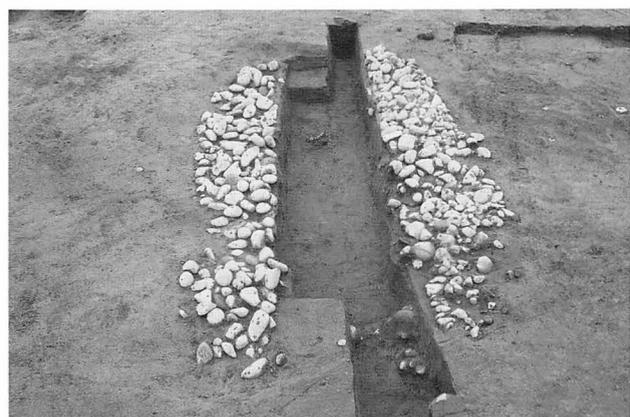


図18 側板外に礫を充填した木棺墓（SM1025）

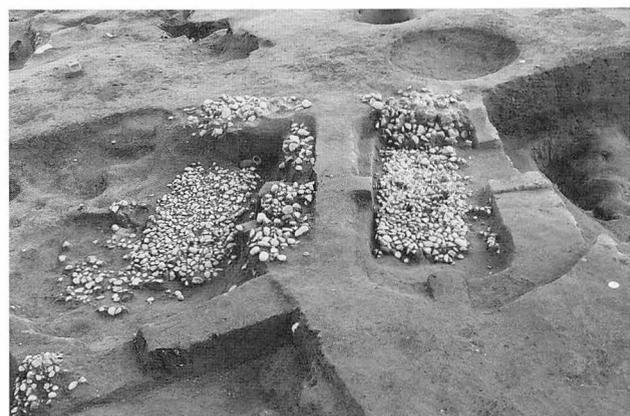


図19 礫床木棺墓（左 SM1026 右 SM1027）

の広域に土坑墓や木棺墓、礫床木棺墓が分布することは、より大きな集団的まとまりの存在を、数の多さからは集団規模の大きさを推測させる。一方で、居住遺構はわずかなので、集落の構造や、調査地点が集落内のどの場所に当たるのかの解明は課題として残された。

長方形土坑を伴う弥生時代中期後半の集落

弥生時代中期後半の遺構は竪穴住居跡数軒と長方形土坑（図20）が数基ある。長方形土坑は長辺2～4mで、壁は垂直、底面は平坦で、3基前後が近接して群をなしていた。柱穴等の施設は確認できないが、床面が堅緻な例もあり、出入りが可能な貯蔵穴と考えられる。

竪穴住居跡は栗林Ⅰ式、長方形土坑は栗林Ⅱ式の前段階のものがあり、遺構数も少ないことから短期間の集落跡と考えられる。なお、SB1066より緑色凝灰岩片、管玉片、小型勾玉が出土した。

遺構密度が高い弥生時代後期の集落

当該期の竪穴住居跡は数も多く、広範囲で見つかった。弥生時代後期には安定的に集落が営まれ、集落規模も大きかった可能性がある。詳細な遺構時期の検討はできていないが、弥生時代後期前半の吉田式期頃から竪穴住居跡が現れ、箱清水式期に増加し、弥生時代末～古墳時代初頭頃に減少する傾向が捉えられる。ただし、弥生時代末～古墳時代初頭頃では1辺8m前後の大型竪穴住居跡

が数軒ある。また、弥生時代後期の円形周溝墓や土坑墓は確認できなかったが、弥生時代末～古墳時代初頭の方形周溝墓は前年度に自然堤防端部で検出され、弥生時代末頃に新たな墓域の形成、集落の景観の変化があったと推測される。他に井戸跡が数基あり、一部で完形土器が出土している。

特筆すべき出土遺物として銅釧やガラス小玉、鉄鏃や鉄斧と考えられる鉄製品がある。

新たにみつかった古墳時代中期の古墳周溝

昨年度、古墳周溝と思われる円形にめぐる溝跡がみつかったが、隣接地の1-2区で新たに1基検出され、千曲川寄りの自然堤防端部付近に古墳が点在していたことがわかった。

昨年のようなウマの骨が出土することはなかったが、SM1020（図21）からは埴輪と思われる壺形の土器、完形の壺が出土した。「埴輪」は埋土中層より横倒しで出土し、掘り込みはなく骨出土もなかったため棺とは断定できない。本年度調査区内では同時期の竪穴住居跡はみつからず、集落域の解明までは至らなかった。また、続く古墳時代後期の遺構は確認されていない。

硯が出土した飛鳥～奈良時代前期の集落

7世紀～8世紀前半頃の遺構は竪穴住居跡が調査区内の広範囲で検出された。カマドが付属する平面形が1辺5～6m前後の方形のものが多いが、1辺8mを越えるものも数軒ある。他に掘立柱建

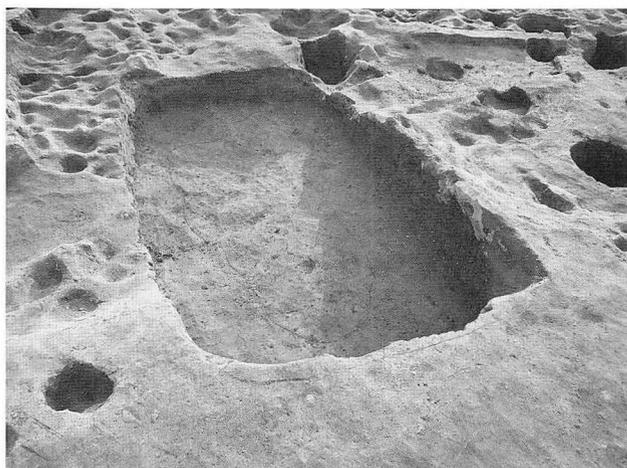


図20 長方形土坑 (SK1382)

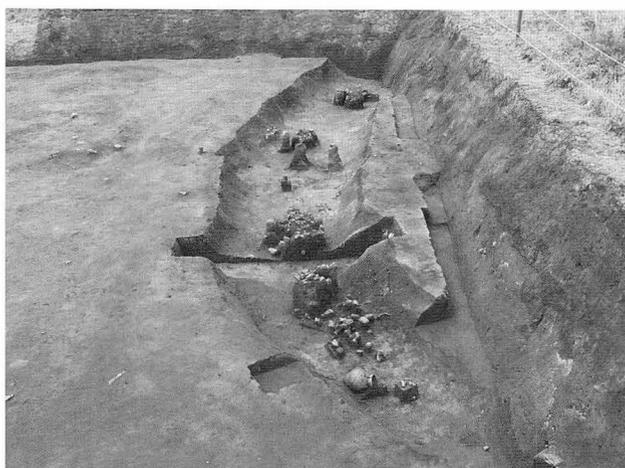


図21 古墳周溝 (SM1020)

物跡や井戸跡、溝跡がある。掘立柱建物跡は遺構重複が著しく、認定しえた数より多く存在する可能性がある。

特筆すべき遺物として円面硯・中空円面硯、カマド芯材と思われる長方形粘土板(図 22)がある。円面硯の出土から文書作成に関わる人物の存在が推定されるが、遺構配置等からは役所の存在を判断することは難しく、集落の性格付けは今後の課題である。なお、8世紀後半の遺構は検出されなかった。



図 22 カマド芯材の出土状況 (SB2011)

小型竪穴住居跡からなる平安時代集落

平安時代前期に属する遺構は小型竪穴住居跡が数軒が検出された。このうち、洪水砂層が入る竪穴住居跡は1軒のみであったが、他の竪穴住居跡も洪水砂層以前の遺構と考えている。

平安時代以後の遺構には溝跡と井戸跡、墓跡がある。溝跡は平安時代末頃のもので調査区を縦断するように2本が平行し、直交方向の溝跡が所々に接続する。溝跡内からは獣骨が出土し、一頭分の馬が倒れた状態で出土した(図 23)。この溝跡は区画溝と思われ、現市道にほぼ重なって位置する。また、井戸跡は遺跡内に点在して分布し、このうち1基から内耳鍋が出土していることから、16世紀後半頃の溝跡と捉えられた。

塩崎遺跡群は断続的であるが、長期にわたり集落が営まわれているため、遺構が重なってつくられる、遺構密度が極めて高い遺跡である。集落を



図 23 溝跡のウマ骨出土状況 (SD1020)

営むには安定した場所だったと推測されるが、なかでも弥生時代後期と飛鳥～奈良時代前半の遺構は多い。この時期に安定的に大きな集落が営まれた背景の解明は課題として残る。

弥生時代中期中葉では、大規模集落の出現の可能性の様相が、例えば磨製石斧・石包丁の使用や墓制の影響などの様相によって、裏づけられることも予想されたが、遺構重複が著しいことや古い遺構ほど遺存状態が不良であったことから、具体的に捉えられていない。

さらに、管玉・勾玉が検出面や飛鳥・奈良・平安時代遺構への混入品も含めて、多数出土し、なかには長さ1cm以下の勾玉も出土している。前年度よりヒスイや緑色凝灰岩原石・剥片の出土から、遺跡内での玉造りの可能性は推測されていたが、玉造りの道具類の出土は本年も認められず、具体的な生産の様相は捉えられなかった。

次年度は上記課題の解明を目指したい。

い で が わ み な み い せ き (5) 出川南遺跡

((都) 出川双葉線)

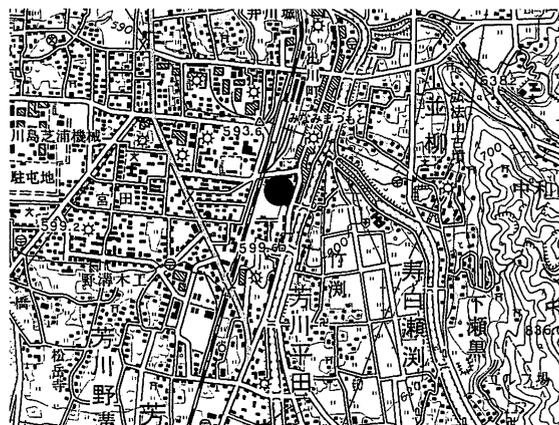


図 24 出川南遺跡の位置 (1:50,000 松本)

所在地及び交通案内：松本市出川町 20 ほか

JR 南松本駅周辺、双葉・芳野・出川町に広がる。

遺跡の立地環境：奈良井川扇状地と田川・牛伏川

扇状地が接する合流扇状地の末端に立地する。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
26.4.10～8.29	1,460㎡	綿田弘実 前田一也

検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴住居跡	1	古墳
掘立柱建物跡	1	中世
竪穴状遺構	2	中世
土坑	9	古墳、中世
ピット	210	中・近世
溝跡	7	中・近世

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・陶磁器	縄文、弥生、古墳、平安、近世陶磁器
石器	弥生 (打製・磨製石鏃)
その他	中世 (鉄滓)

遺跡の概要

本遺跡は北流する田川の左岸にあり、JR 南松本駅をほぼ中心に、東西約 750m、南北約 600 m の範囲に広がっている。北側に接して出川西遺跡が展開する。田川を隔て、東方約 1.5 km の中山丘陵突端には弘法山古墳がある。

昭和 61 年度の第 1 次調査以来、松本市教育委員会によって平成 25 年度の第 23 次まで調査が行われてきた。この間、一部に縄文時代晩期後半や

中世の遺構を含み、弥生時代中期から平安時代の住居跡 600 軒以上が確認され、約 1000 年間にわたって継続してきた状況が明らかになっている。今回は第 24 次調査となる。隣接地点では、第 6 次・9 次・22 次・23 次の調査が行われ、弥生・古墳・平安時代集落が検出されている。

本年度の調査成果

調査地点は、市道を挟んで前年度市教育委員会が調査した第 23 次調査地点の西側に連続する。当該調査では、平安時代から中世の遺構を検出した第 1 検出面、弥生時代後期から古墳時代前期の遺構を検出した第 2 検出面の 2 面調査を行っている。表土剥ぎ開始時これに相当する地層が確認されたため、同じ 2 面の調査を行った。また、排土置き場と現住住宅の進入路確保のため、東西約 65 m の調査区を中央で 2 分し、東側を 1 区、西側を 2 区と呼称した。

第 1 検出面では平安時代と推定できる遺構は検出されなかった。出川双葉線側の北半部は宅地に利用され、かく乱が及んでいた部分が多いが、東西方向の溝跡を検出した。ほぼ同じ位置に 3・4 条が重複、または並走している。規模が大きい溝跡は幅約 3 m を測る。

南半部では掘立柱建物跡、竪穴状遺構、土坑 (直径 50 cm 以上)、ピット (直径 50 cm 未満)、幅約 10 cm、深さ 5 cm 未満の小溝跡が検出された。これらは遺物を伴っていないが、第 23 次調査成果や遺構の形状から、中世以降の時期と推定され



図 25 出川南遺跡 1 区の掘立柱建物跡、竪穴状遺構

る。

第 2 調査面では、1 区で古墳時代前期の土器集中部分を検出した。南半部では遺物量が多く、正位の状態で甕形土器が出土した部分もある。北半部では遺物は少量となる。土器は甕形と高坏形があり、壺形は少ない。調査区の中央部付近には、東西方向に幅約 9 m の流路跡がある。この西側となる 2 区では遺物量が少ない。

1 区の西端では、第 2 調査面の上層で古墳時代中期の竪穴住居跡 1 軒を検出した。南西隅が調査範囲外となったが、東西 4.7 m の隅丸方形を呈する。小型丸底土器などが出土し、カマド出現以前の 5 世紀前半代の時期と考えられる。

大規模遺跡の変遷

弥生時代以降継続時期が長く、大規模な出川南遺跡の中であって、今回の調査地点は遺構密度が低い部分であった。第 2 調査面では、住居は確認されなかったものの、弘法山古墳の時期に近い古墳時代前期の土器がまとまっていた。市教育委員会の教示によると、甕形土器の多くが台付甕であ

り、S 字状口縁を呈さない形態は、濃尾地方でも矢作川流域に共通する特徴という。出川西遺跡では良好な資料が出土しており、比較検討する必要がある。また、本遺跡ではこれまで 600 軒以上の竪穴住居跡が検出されているが、古墳時代中期に属する住居跡は確認されておらず、遺跡の空白期を埋める事例となった。

本遺跡で中世遺構を検出した調査地点は少ない。東西方向の溝跡は土地区画を示す可能性もあり、課題を示す事例となろう。

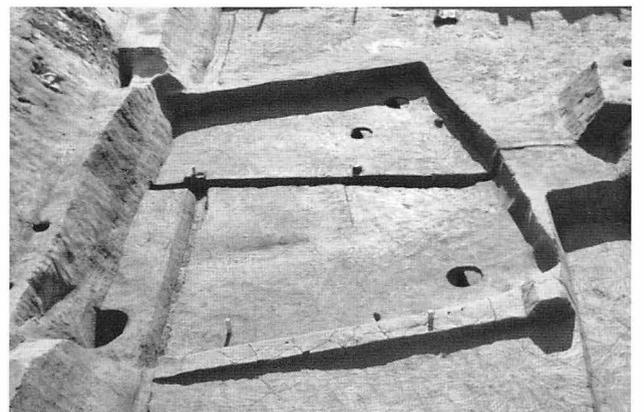


図 26 古墳時代中期竪穴住居跡

(6) かいがんじいせき 海岸寺遺跡

(通常砂防事業 (海岸寺沢))

所在地及び交通案内：松本市入山辺字東桐原
JR 松本駅の東約 6.6km。

遺跡の立地環境：薄川右岸の大倉山西山麓の海岸寺沢の谷内に立地する。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
26.9.1～11.11	5,200㎡	綿田弘実 前田一也

検出遺構

遺構の種類	数	時期
テラス状遺構	1	中・近世
土坑	19	平安～近世
火葬施設	2	中世
焼土跡	4	平安～近世
溝跡	1	平安
石垣	8	近世

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・陶磁器	縄文、平安（土師器・須恵器・灰釉陶器）、中世（青磁、陶器、内耳鍋）、近世陶磁器
石器	縄文（剥片）
その他	中世（銭貨、人骨）

遺跡の概要

本遺跡は、南西に開けた谷あいの傾斜地、標高約 750～800m に広がる。地形は、遺跡範囲西端を画する海岸寺沢に沿った狭い氾濫原と、ほかの大部分が段丘となる。現景観は、ほぼ全体が石垣を伴う水田で、平坦地を伴って階段状になり、旧地形をとどめていない。

北側尾根上には桐原城址、東側尾根上には霜降城址がある。遺跡から海岸寺沢を 500m ほどさかのぼった北方の山際にある弘法平には海岸寺経塚

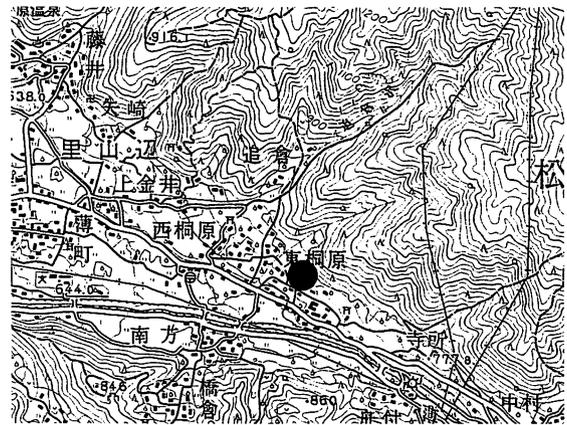


図 27 海岸寺遺跡の位置 (1:50,000 和田)

が所在し、当初の海岸寺域があったと推定されている。地元桐原区には長野県宝木造千手観音立像とともに、元和 3 年 (1617) の木造棟札が伝えられ、奥院から観音堂を移し、田地を寄進した旨の記載がある。

平成 24 年度、松本市教育委員会が砂防事業に先立って範囲確認の試掘調査を行い、礎石建物跡と池跡を検出しこの地点を保存地区とした。平成 25 年度、保存地区より下方の海岸寺沢側、ダム本体及び砂堆範囲と、幹線農道から遺跡を縦断する市道の付替部分を当センターが発掘調査した。

その結果、現況にみられる連続する平坦地は、過去に建物を建てるために造成された可能性が想定されていたが、遺構・遺物がほとんど検出されず、この平坦地は近世に造成されたと推測された。また、付替道路部分では近世の土坑墓、平安～戦国時代と思われる柱穴、土坑、平安時代の堅穴住居跡が検出されている。

本年度の調査成果

本年度は、市道の南東側半分の平坦地群、保存地区を避けて山麓を迂回する道路用地、付替道路部分を調査した。

付替道路部分は現道路盤の下が地山となり、全線にわたって中央部に農業用水パイプが埋設された状況で、遺構は検出されず、少量の土師器が出土したにとどまった。

市道南東側は 6 段の平坦地が連なり、高所から低所へ平坦地 24～29 を付番した。前年度対象地



図 28 海岸寺遺跡調査区全景

と同じく、平坦地の山側は地山を削られ、谷側は多量の礫を含む盛り土で埋め立てられている。上層には礫が少ない水田耕土の下部層があり、高い石垣を築いている。部分的に旧表土と思われる黒色土層が残っていた。

最高所の平坦地 24 で、接合可能な坏・椀類を含む平安時代の土器の集中する部分を確認したが、竪穴住居跡等は検出されていない。また、同地点では縄文時代前期土器も出土している。

平坦地 25 では、盛り土層の下から中世陶器、内耳鍋の破片を含む土層が堆積したテラス状遺構と考えられる痕跡がみられた。同地点と低所の平坦地 29 では、焼骨を伴う火葬施設とみられる遺構が検出され、後方で銭貨 2 点が出土している。

保存地区の上段、調査範囲の最高所に位置する道路用地では、平坦地 2 で平安時代土器が出土したほか、中世と推定される焼土跡が見られた。

山間地の土地利用

2ヶ年の調査では海岸寺にかかわる遺構は検出されなかった。海岸寺の創建時期は明らかではな

いが、発掘調査された山岳寺院の松本市牛伏寺、同（旧波田町）若澤寺では 9・10 世紀代の遺構が検出されている。本遺跡では住居跡をはじめ、全域で出土した平安時代土器が 10 世紀代を中心とすることから、古代寺院と関連する山間集落の事例を今後検討したい。縄文時代、中世に関しても、山間傾斜地に立地する遺跡と比較し、土地利用のありさまを明らかにすることが課題である。

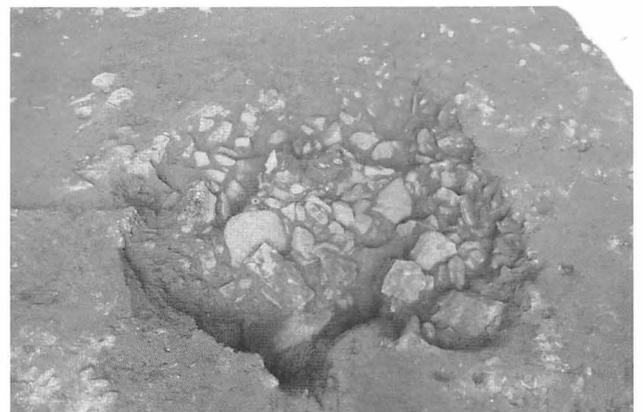


図 29 中世火葬施設

(7) あらじょうみね い せき 新城峰遺跡

(防災・安全交付金(道路)事業)

所在地及び交通案内：立科町大字山部字新城峰
立科町役場から北西約1km。

遺跡の立地環境：蓼科山の北側山麓に広がる尾根
上に立地する。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
26.7.22～11.13	4,664㎡	廣瀬昭弘 大澤泰智

検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴状建物跡	3	中世
掘立柱建物跡	1	中世
溝跡	2	中世
土坑	16	平安、中世
土器集中	1	中世
礫集中	1	中世

新城峰遺跡は蓼科山の北側山麓に立地する。この地域は浸食による谷地形が発達し、遺跡の立地する尾根も周囲を解析谷に囲まれ、東側から南側は緩斜面であるが、北西部は急斜面となる。標高は760～800mを測る。

遺跡は平成25年度に立科町教育委員会による



図30 調査区全景

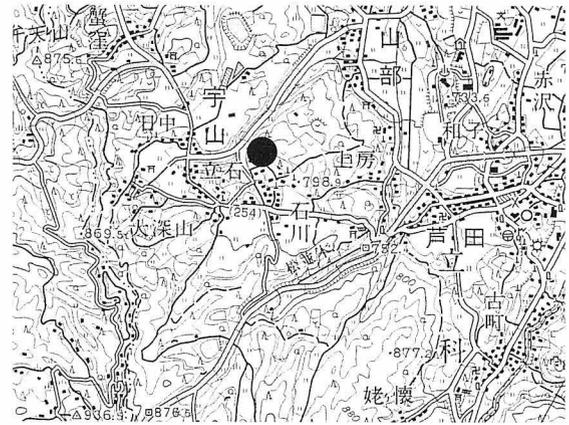


図31 新城峰遺跡の位置(1:50,000小諸)

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・陶磁器	平安(土師器) 中世(内耳鍋、土師質皿、鉄釉皿)
石器	砥石、凹み石、磨石
銭貨	中世

試掘調査で中世の土器片などが出土したことから新たに登録され、今年度国道254号立科町宇山バイパス建設事業に伴って発掘調査を実施することとなった。

調査は尾根頂部から東側緩斜面については面的に行い、北西側急斜面から遺跡西端の低位部はトレンチ調査を実施した。

新城峰遺跡は当初遺跡所在の地字名などから中世山城跡の可能性なども考えられたが、尾根頂部にみられた低い盛土状の高まりは現代の畑耕作に伴う盛土と確認され、山城跡に関係する遺構はみつからなかった。

短期間に営まれた中世集落

調査では、尾根頂部から東側緩斜面で中世の集落跡が発見された。

検出された遺構は竪穴状建物跡3軒、掘立柱建物跡1棟などである。

竪穴状建物跡は尾根頂部からやや下った東側緩斜面で等高線に沿って並ぶように検出された。斜面上部側を掘り込んだもので、半地下式の建物跡と考えられる。規模は5～6m×4m程度の長

方形で、炉跡は検出されなかった。建物跡からは内耳鍋片などが出土し、一軒からは腐食が進んだ銭貨が1枚出土した。

掘立柱建物跡は尾根頂部付近で検出され、2間×3間の建物跡で東西約7m、南北約3.5mの規模を測る。北側の柱跡には石を置いているものがあり、礎板石とした可能性がある。柱穴からは内耳鍋片がわずかに出土した。

調査で出土した遺物はほとんどが内耳鍋片で、土師質皿などの食器類は非常に少なく、陶磁器類として鉄釉の皿1点が出土したのみである。

出土遺物はほとんどが16世紀後半頃のものと考えられ、新城峰に営まれた中世集落は短期間に形成されたものと考えられる。また、調査対象外の尾根南側斜面でも過去に内耳鍋片などが出土していたことが地元関係者から聞き取りされ、集落が南側斜面にも広がっていた可能性がある。

調査で検出された遺構は少ないものの、尾根の上に暮らした当時の生活の様子的一端が明らかとなった。当時は信濃をはじめ全国的に世の中が安定せず、戦火が繰り返されていた時代である。新城峰遺跡に居を構えた人たちは戦火を逃れるために一時的に新城峰の尾根に避難してきた人かもしれない。



図 32 掘立柱建物跡 遺物出土状況



図 33 掘立柱建物跡

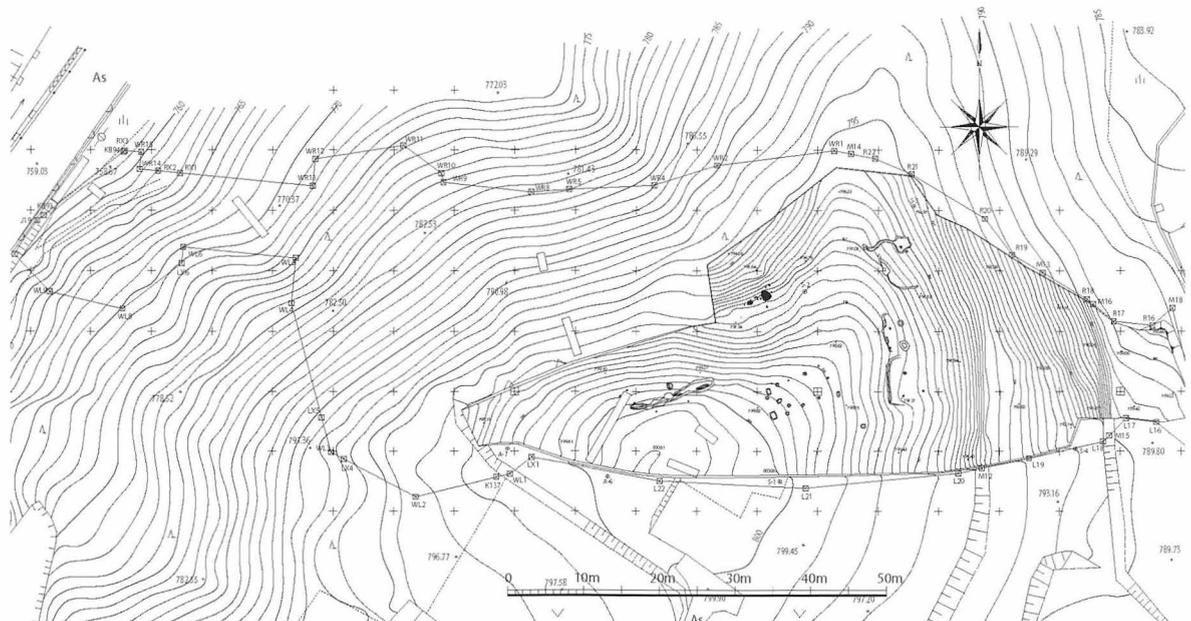


図 34 調査区全体図 (1 : 1,000)

(8) どうげんいせき 洞源遺跡

(中部横断自動車道関連)

所在地及び交通案内：佐久市前山字洞源

国道 141 号線洞源湖入口交差点から北西約
1.3 km。

遺跡の立地環境：千曲川左岸、八ヶ岳北麓から東
に延びる尾根の南斜面に立地する。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
26.8.4 ~ 11.6	3,800㎡	藤原直人 栗林幸治

検出遺構

遺構の種類	数	時期
製鉄炉跡	3	平安
焼土跡	4	平安
土坑	3	平安、中世
竪穴状遺構跡	1	平安
炭化材分布地	1	平安

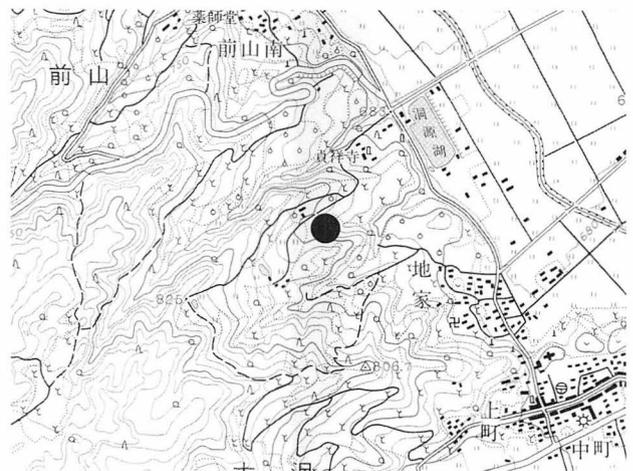


図 35 洞源遺跡の位置 (1 : 50,000 小諸)

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・陶磁器・土製品	縄文、平安 (土師器、須恵器、灰釉陶器、轆の羽口)、中世 (内耳鍋)
石器	縄文 (石鏃、石斧)、平安 (敲石、磨石)
鉄滓	平安

遺跡は佐久盆地南西部の標高約 720 m を測る丘陵にあり、野沢・臼田地区を見下ろす南斜面に立地する。遺跡の南には小河川を挟んで地家遺跡がある。発掘調査は平成 25 年度から実施し、今年度が 2 年目である。昨年度は 11 本、今年度は



図 36 調査区遠景

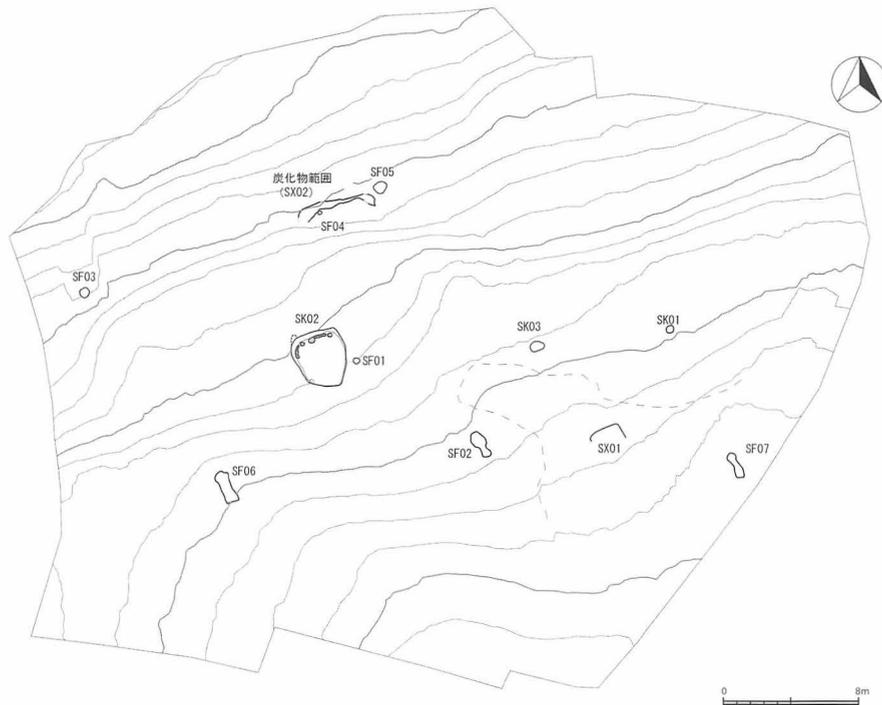


図 37 遺構配置図

10本のトレンチ調査を行い、南斜面や斜面裾部で遺構（土坑）と考えられる黒色土の落込みなどを検出したため、1,500 m²について面的調査を行った。

佐久地域で初めての製鉄炉跡

今年度の調査で検出した遺構は、平安時代後期の製鉄炉跡3基・焼土跡4基・土坑2基・火床を伴う作業場と考えられる竪穴状遺構跡1軒、中世の土坑1基である。平安時代の製鉄炉跡は長野県内で6遺跡28基が数えられているが、今回の発見で7遺跡31基となり、佐久地域では初めての事例となった。



図 38 製鉄炉跡 (SF02)

製鉄炉跡3基は円形の土坑状の燃焼部の上に円筒状の筒をのせた竪型炉と考えられる。炉の下部には炉から溶解した不純物（^{はいさい}廃滓）を流出させる溝状の落込みを有している。規模はSF02が長軸約168×短軸約85cm、SF06が長軸約200×短軸約85cm、SF07が長軸約147×短軸約52cmと大きさにややばらつきがある。溝状の落ち込みを除く炉本体の大きさはSF02で長軸約90×短軸約80×深さ約17cmである。炉本体の壁面には被熱跡の顕著な硬化部が部分的に張り付いた状態で認められ、炉本体の硬化はSF06でも認められている。一方、SF07では炉壁片が炉埋土内で検出されているが、壁面の硬化は認められない。

3基の炉本体底面には炭化物の堆積が顕著であった。また、竪型炉に伴う斜面上部に設けられていたと推測される送風施設（^{ふいご}鞴の痕跡や廃滓場など）が検出されていないことや、炉跡の地表面からの深さが約29～17cmと浅いことから、炉の上部は後世の削平等により消失したものと推測される。

^{てっさいるい}鉄滓類は炉内部からの出土で、炉内滓や流動滓は少量で、特に流動滓の出土は極少量であった。送風施設の一部である羽口については、SF02と



図 39 羽口出土状況 (SF02)

SF06 の廃滓溝から破損した状態で出土している。

調査区は丘陵の南斜面標高約 720 ～ 709 m を測る小河川に面した場所である。3 基の製鉄炉跡は標高約 712 ～ 710 m の丘陵裾近くの小河川際に約 15 m 間隔で分布している。河川に近い箇所に施設が設けられているのは、製鉄作業にあたり流水を利用する目的のためか、今後の検討課題である。

作業場跡として利用された平坦面

SF02 と SF07 の中間部では東西約 2 m × 南北約 1.8 m の平坦面 (SX01) が検出されている。緩斜面に設けられた遺構で、斜面を掘削し、南に向かって傾斜しているものの、平坦面がつくられている。北側は壁面と考えられる立ち上りがあり、壁面寄りでは火床が認められ、中央部に支脚石として機能したとみられる礫が立った状態で検出された。

火床周辺からは平安時代後期の坏や長胴甕、小型甕等の日用雑器や作業台に使われたとみられる表面が平坦で滑らかな礫が出土している。このことから、何らかの煮焚きや諸作業が行われたことが考えられる。製鉄活動を行う際の作業場あるいは休憩所のような用途が推測される。

炭化材の分布

製鉄炉跡 (SF02) の北約 15 m の緩斜面上では長軸約 4 m × 短軸 1.5 m の範囲に炭化材が分布しているヶ所 (SX02) が検出された。造成などで削平を受け、部分的な検出となったが、製鉄炉に



図 40 平坦面の遺物出土状況 (SX01)

使用する木炭の保管場所のような役割を持った施設の一部ではないかと推察される。

今回の調査で、木炭窯は検出されていないが、鉄生産に欠かせない木炭供給のための木炭窯が本調査区周辺に存在することが想定される。

また、鉄生産に欠かせない砂鉄などの原料およびその採取について、鉄滓の分析や周辺部の砂鉄のあり様を追求して明らかにしていきたい。



図 41 炭化材分布範囲 (SX02)

おおさわやしきいせき (9) 大沢屋敷遺跡

(中部横断自動車道関連)

所在地及び交通案内：佐久市大沢

国道 141 号線本新町交差点から西へ約 1.3 km。

遺跡の立地環境：千曲川左岸、大沢川が形成した

扇状地上に立地。標高 704 m。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
26.4.9～6.10 10.16～11.25	2,328㎡	若林 卓 藤原直人 上田 真 栗林幸治

検出遺構

遺構の種類	数	時期
土坑	19	縄文時代後期

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器	縄文、平安（須恵器）
石器	縄文（磨製・打製石斧、石鏃、剝片）

扇状地上の縄文時代後期土坑群と遺物包含層

佐久平西縁部には八ヶ岳から張り出した丘陵が幾重にもみられる。遺跡は、そうした丘陵の間を東流する大沢川が形成した扇状地に立地する。

発掘調査の対象地は、扇状地中央を通る県道 150 号線と北寄りを流れる大沢川の間位置する。南から 1～4 区に区分し、平成 23 年度から当センターが発掘調査を実施し、これまで 1 区と 3 区で縄文時代後期の遺物包含層と土坑群が検出されている。

4 年目となる本年度は、本線の残件部分と、隣接地に計画された工事用仮設道路等の建設部分について、計 7 箇所（1b・1c・2b・2c・2d・3d・4b 区）の調査を実施した。その結果、1b 区と 3d 区で遺構と遺物包含層が検出された。一方、4b 区は旧河道にあたり、1c・2b・2c・2d 区は後世

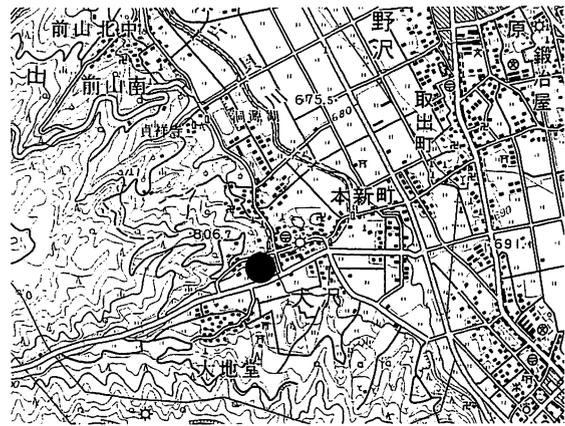


図 42 大沢屋敷遺跡の位置（1：50,000 小諸）

の削平を受けており、遺構および遺物包含層は確認されなかった。

検出された遺構は 1b 区が土坑 8 基、3d 区が土坑 11 基である。出土遺物や分布状況から、これまでに調査した土坑群との関連が想定され、同じく縄文時代後期（前半以降）の所産である可能性が高い。土坑群は集落ないし居住生活に密接に関連する施設であることは確かであろうが、その機能・用途を明確にすることは難しい。

ただし、土坑には断面形状が袋状や円筒状を呈する深いものがあり、それらについては貯蔵施設としての利用が推測される。微地形的に低位部ないし低位部から高位部への変換点に位置しており、周囲の水田に水が入っていない時期にも土坑下部から水が湧出した。低地型の貯蔵穴として理解しておきたい。

遺物包含層は、1・3 区と同様に、基盤となる礫まじり黄褐色シルト層の直上に形成されている。土器は縄文時代後期前半がほとんどで、わずかに中期初頭を含む。包含層中の遺物は西方から流れてきたと考えられ、調査地からさほど遠くない上流部に集落跡など遺物の出所が存在すると考えられる。

また、本年度は、1b 区で遺物包含層を切る自然流路跡から平安時代の須恵器坏が出土し、出所には平安時代の内容を含むことが推測される。西方に 400 m ほど離れた丘陵斜面にある大榎遺跡（古代）、700 m ほど離れた丘陵斜面～裾部に立地する一丁田遺跡（縄文・古代）が、現状で想定さ

れるが、扇状地上に未発見の遺跡が眠っている可能性もある。今後、注意してゆく必要がある。



図 43 土坑の調査風景



図 44 断面袋状の土坑

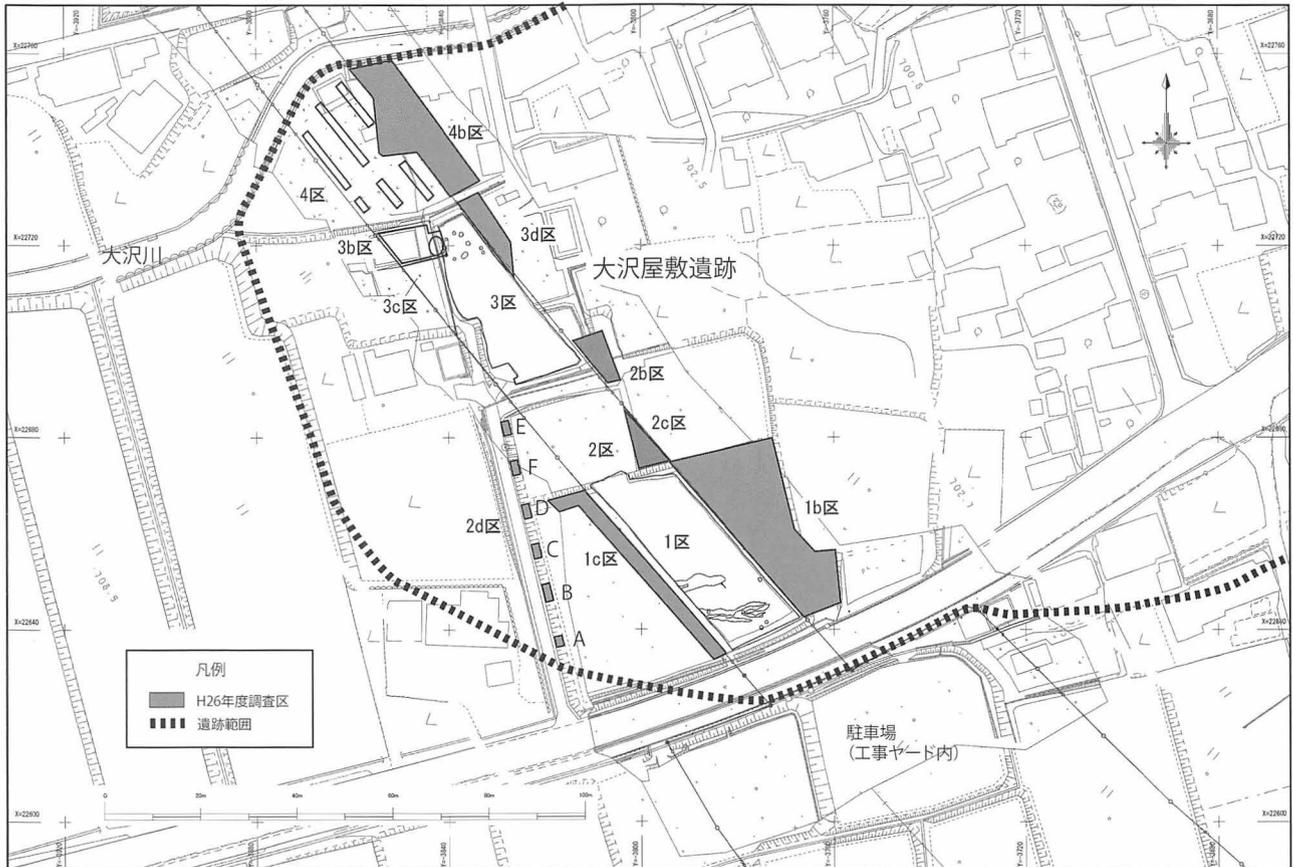


図 45 大沢屋敷遺跡調査区

(10) ぢけいせき 地家遺跡

(中部横断自動車道関連)

所在地及び交通案内：佐久市大沢字地家

国道 141 号線本新町交差点から西約 1.3 km。

遺跡の立地環境：佐久平南部を見下ろす東向きの

山裾傾斜地に立地する。標高約 725 m。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
26.7.7 ~ 7.31	80㎡	藤原直人 上田 真 栗林幸治

検出遺構・出土遺物

遺構の種類	数	時期
土坑	1	古代
遺物の種類	時期・内容	
石器・土器ほか	古代（土師器、須恵器）、中・近世	



図 46 地家遺跡の位置

第 5 次となる今回の調査区は、尾根上の市道路路部分にあたる。舗装前の工事等によるかく乱が著しく、検出された遺構は古代の土坑 1 基である。

隣接地では過去の調査で平安時代の竪穴住居跡や土坑などが検出されていることから、該期の遺構の存在が予想されたが、削平により消滅した可能性が高いものと考えられる。

(11) まくくぼいせき 満り久保遺跡

(中部横断自動車道関連)

所在地及び交通案内：南佐久郡佐久穂町大字畑

国道 141 号線清水交差点から西約 1 km。

遺跡の立地環境：八ヶ岳東麓から東に延びる丘陵

末端部の河岸段丘上に所在する。標高約 850 m。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
26.4.14 ~ 5.27	103㎡	藤原直人 栗林幸治

検出遺構 なし

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
石器	旧石器（尖頭器）、縄文（石鏃）
土器	縄文



図 47 満り久保遺跡の調査風景

平成 21 年度および 25 年度の調査では、いずれも耕作土から、旧石器時代の石器や剥片、碎片 3,200 点あまりが出土している。

今年度の調査区は平成 21, 25 年度同様、耕作土から黒曜石製の尖頭器や石鏃の出土がみられた。

石器の出土数は 4 点、剥片は 18 点と少なく、石器や剥片が集中して出土する状態は認められないことから、以前の調査で指摘できた石器製作跡からは外れた地点と考えられる。

(12) おだれいせき 尾垂遺跡

(中部横断自動車道関連)

所在地及び交通案内：佐久市前山字尾垂

国道141号線洞源湖入口交差点から北西約1.7km。

遺跡の立地環境：千曲川左岸、八ヶ岳北麓から東

北に延びる丘陵裾部の南側平坦地に立地。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
26.11.21～12.12	2,140㎡	藤原直人 栗林幸治

検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴住居跡	3	古墳、平安
土坑	3	平安

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・土製品	縄文、古墳～平安（土師器、須恵器、羽口）、中世（青白磁）
石器・石製品	石鏃、石斧、凹石

丘陵南裾部で見つかった古代、中世の遺構

遺跡は地形的に、丘陵頂部付近の傾斜地(①)と、その南側下方の段丘面状の平坦地(②)とに大きく分かれ、その間が急崖となる。昨年度は①を調査し、遺構・遺物が検出されなかった。今回の調査区は②にあたり、次年度に向けての確認調査を



図48 トレンチ掘削状況



図49 尾垂遺跡の位置図(1:50,000 小諸)

施した。調査は丘陵裾部南側の平坦面に6本のトレンチを掘削した。その結果、平坦地の南側と丘陵南斜面直下で竪穴住居跡と考えられる掘り込みが3軒、土坑とみられる掘り込みが数基確認された。市道を隔てた東側の一段低い地区では焼土を伴う硬化面や、礎石が想定される平石が検出され、中世の遺物(青磁片)が出土した。この一段低い地区周辺は、平成12年佐久市教育委員会により試掘調査が行われ、中・近世の遺構・遺物が検出されている。市の報告では中央部の地表下30cm付近で焼土・炭化物を多量に含む土層が広範囲に認められ、中世から江戸期のカワラケ、陶器が出土し、焼土層の東側では礎石とも考えられる石が点在していたとある。この地には、龍覚寺りゅうかくじと称する寺院が焼失し、他所に移転したとする言い伝えが残っており、伝承と検出遺構とが関連する可能性が指摘されている。

今回の調査や市の調査結果を合わせて考えると、平坦地の南側では古墳時代、古代の集落の一部が、東側の一段低い地区では中・近世の遺構が検出される可能性が極めて高いものと判断される。



図50 検出された方形の掘り込み

Ⅲ 本格整理作業遺跡一覧

遺跡名	所在地	事業名	整理の内容（作業）	整理中の主な成果
びわしま 琵琶島	中野市	県道豊田中野線	遺物観察・分類・実測・トレス・写真撮影、遺構図のデジタルトレス、図版組など。	本文参照
みなみだい 南大原	中野市	県道三水中野線	遺物観察・分類・接合・復元・実測・トレス、遺構図のデジタルトレス、図版組など。	
にしちか 西近津	佐久市	中部横断自動車道	遺構図修正、デジタルトレス、遺物選別、遺物実測・トレス、写真撮影、原稿執筆、報告書編集刊行。	
ちけ 地家			五輪塔の洗浄、注記、写真撮影、台帳作成。木製品の照合、台帳作成、水替え。	
かんのみねじょう 神之峯城ほか	飯田市	飯橋道路	遺構図修正、仮図版レイアウト、遺物の接合、復元。	

(1) 琵琶島遺跡

(県道豊田中野線関連)

整理作業の概要 琵琶島遺跡は平成 23～25 年度に発掘調査を実施し、弥生時代中期後半の竪穴住居跡 2 軒、溝跡 4 条、掘立柱建物跡 20 棟以上と土坑約 500 基、古墳時代の土坑墓 1 基、縄文・平安時代の土坑それぞれ約 10 基などが発見された。出土遺物の大半は弥生時代中期後半の栗林式土器が占め、そのほかに縄文時代草創期の爪形文土器から平安時代の羽釜片まで各時代に及ぶ。今年度は、出土遺物（土器・石器他）の観察、分類、実測、写真撮影（業務委託）、掘立柱建物跡などの遺構図のデジタルトレースをおこない、図面、写真類の図版組みをした。また、土器集中域（SQ01）から出土した栗林式土器の甕形土器胴部破片に付着した炭化物を用い、自然科学分析（放射性炭素年代測定、炭素・窒素安定同位体比および総炭素量・総窒素量分析）を業務委託した。以下、整理作業で得られた新たな所見を記す。

琵琶島遺跡の弥生土器 琵琶島遺跡から出土した遺物は、遺構外の遺物包含層から出土したものが多く、図化したものは、土器・石器などすべてで 470 点近くに及ぶ。大半は土器で、石器は 30 点弱である。土器のほとんどは弥生時代中期後半の栗林式土器であり、そのなかでも壺形土器の文様が口縁部から胴部まで隙間なく施される古い段階の栗林式である（図 51）。今後、詳細な分類を行い、栗林式土器の古い段階の様相がさらに明らかにできればと考えている。

科学分析の成果 放射性炭素年代測定、炭素・窒素安定同位体比および総炭素量・総窒素量分析をおこなった栗林式甕形土器胴部破片の試料は、土器の外表面に炭化物が厚く付着したもので、食物の調理に伴う吹きこぼれに由来するものであろう（図 52）。年代測定の結果は、歴年較正年代（1 σ ）で 354～202cal BC の間に 2 つの範囲で示され、弥生時代中期頃に相当し栗林式土器の型式学的な年代と一致した。

また、もう一つの炭素・窒素分析では、炭素安定同位体比 $\sigma^{13}\text{C}$ が -26.5%、窒素安定同位体比 $\sigma^{15}\text{N}$ が 9.01%で、C3 植物やそれを食べる草食動物、さらに陸生の雑食もしくは肉食動物が想定され、炭素・窒素に基づく C/N 比は 52.4 で、デンプンを主成分とする C3 植物に近い値が出た。

以上のことから、土器に付着した炭化物は複数の食物の混合物で、当時の人びとがドングリなどのデンプン質のものの中にイノシシやクマなどを入れて食べていた可能性も考えられる。



図 52 甕形土器炭化物付着状況



図 51 琵琶島遺跡の壺形土器

(2) 南大原遺跡

(県道三水中野線関連)

整理作業の概要 南大原遺跡は平成 23～25 年度に発掘調査を実施し、縄文時代前期の竪穴住居跡 1 軒、弥生時代の大溝跡 1 条、弥生時代中期後半～後期初頭の竪穴住居跡 10 軒と土坑 32 基、弥生時代中期の礫床木棺墓および木棺墓 5 基、弥生時代後期方形周溝墓 1 基などが検出された。

今年度は主に、出土遺物（土器・石器他）の観察、分類、接合、実測、トレース、竪穴住居跡などの遺構図のデジタルトレースを行ない、図面類の図版組みをした。また、SK174（土坑）で、半ば潰れた状態で土ごと取上げた土器の解体と記録を行なった。この他、自然科学分析（木製品年代測定、リン酸カルシウム分析）、遺物写真撮影を業務委託で実施した。以下に整理作業で得られた新たな所見を記す。

SK174 出土の土器 土ごと取上げた土器の解体の結果、土器の内部からは骨などの有機質の遺物は確認されなかったが、土器の出土状態から、2 点の甕形土器を用いた土器棺であると推定した（図 53）。甕 B は甕の本来の形状をほぼ保っていたものの、甕 A は割れて原位置を保っていない可能性がある。2 点の甕の埋納時における本来の位置関係は復元できていないが、土器片すべてに番号を付け出土状況を記録し、埋没過程で土器がどのように割れたのかを検討する予定でいる。遺跡での甕 B の傾き等は正確には復元できなかったが、調査所見から、土器 B は概ね図 53 のように傾斜して埋納されていたと考えられる。

土器内外の土壌を分析した結果、甕内に骨があったと断定できる結果は得られなかったが、土器の外側に比べ、土器内のリン酸およびカルシウムの値が高いことから、甕は土器棺であった可能性があると思定している。なお、土器は調査区壁際で出土したため、調査時点で土坑の形状を確認できなかった。

弥生時代中期後半の鉄斧 鉄斧は、栗林式土器が主体となる竪穴住居跡（SB11）床面から出土した（図 54）。保存処理を済ませたが、錆を完全に

は除去してはいない。現状で、長さ 7.3 cm、幅 2.1 cm（サビ部を除く）、厚さ 1.3 cm の片刃の鉄斧である。

この他、弥生時代後期の竪穴住居跡（SB13）などでは、鉄鏃が出土した。鉄製品が出土した竪穴住居跡では、床面に炉以外に複数の焼土跡が確認されている。調査区全体では、台石 8 点と敲石 47 点が確認されているものの、石器製作に関わる剥片・碎片類は 150 点ほどと比較的少ない。台石・敲石は鉄製品の加工に関わった可能性もあり、さらに検証を進め、報告としたい。発掘調査報告書は平成 27 年度に刊行予定である。

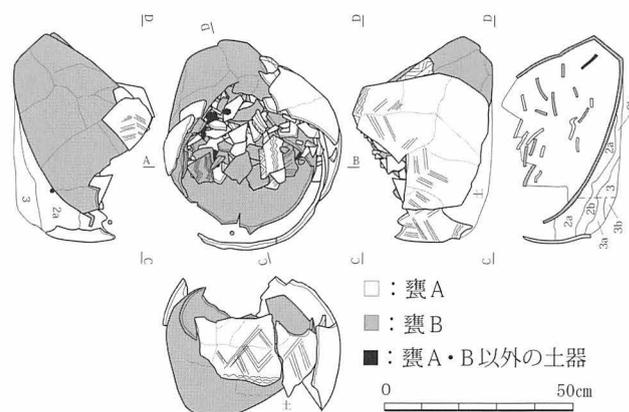


図 53 SK174 出土の土器棺？（右：A、左：B）

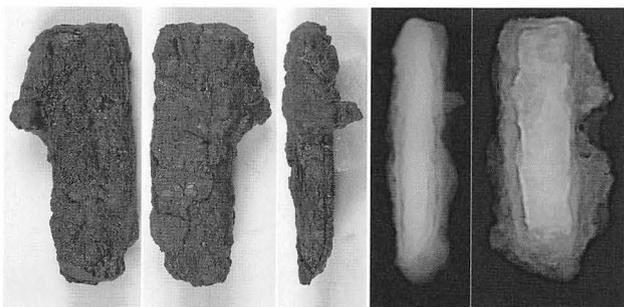


図 54 SB11 出土の鉄斧

(3) 鬼釜遺跡ほか

(飯橋道路関連)

今年度の整理作業 平成 21 年度・平成 23 年度～平成 25 年度に飯田市上久堅地区に所在する鬼釜遺跡、風張遺跡、神之峯城跡の発掘調査を実施した。調査対象面積は、79,843 m²と広範囲に及ぶ。その結果、鬼釜遺跡では縄文時代中期後半・平安時代・中世の集落と古墳時代の鬼釜古墳、風張遺跡では中世と近世の集落、神之峯城跡では中世の寺院と近世の屋敷地などが確認された。発掘調査例の少ない上久堅地区において、今回の成果は、天竜川左岸における歴史的な様相を把握する上で重要なものとなった。

整理作業は 4 月から開始し、二次原図作成を中心とした遺構図面整理と遺構図のデジタルトレース、土器接合、土器復元、遺物実測・トレース、各種計測台帳の作成を行った。また、金属製品の保存処理、放射性炭素年代測定、土器実測、縄文土器・石器の写真撮影を業者委託で行った。

鬼釜遺跡の土器敷炉 鬼釜遺跡では、玉川に面した自然堤防上に縄文時代中期後半の竪穴住居跡や墓坑と推定される遺構が確認されている。竪穴住居跡では、土器敷炉が 1 基確認されている (図 55)。

この炉跡は最近の耕作で大半が削平され、底部が残存するに過ぎない。炉跡は直径約 0.8 m (検出面) を測り、炉跡の底部と底部側面に土器片 (約 10 個体の土器) が 3～5 重に敷設されていた。これらのなかで、個体の半分以上の破片を含むも

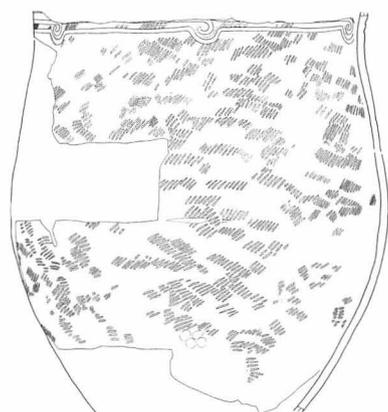


図 55 縄文時代中期後半の土器敷炉

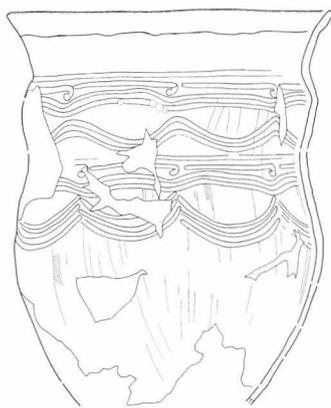
のが 4 点ある。これらの土器は、①沈線文を地文とする深鉢、②縄文を地文とする深鉢、③条痕文を地文とする深鉢、④地文がなく、折り返し口縁の深鉢である。つまり、地文が異なる縄文土器が敷かれていることになる。

伊那谷では、平成 22 年時点で土器敷炉が 15 遺跡 32 例確認されている。そのなかで、今回調査した炉跡のように、土器を複数個体 3～5 重に敷設する例は、鬼釜遺跡が位置する天竜川左岸で 2 例確認されているに過ぎない。

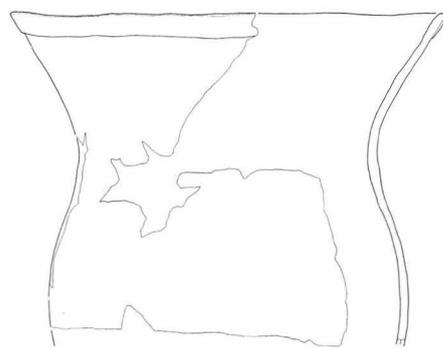
天竜川左岸における土器敷炉の調査事例が少ないため、推測の域を脱しないが、縄文時代中期後半における炉内への土器敷行為は、天竜川左岸と右岸とでは異なる可能性がある。来年度も継続する整理作業で、さらに類例を収集し、伊那谷における土器敷炉の存在意義を検討したい。



縄文地文



条痕地文



無文

0 (1:8) 20cm

図 56 SB14 の土器敷炉に使われた土器

(4) 西近津遺跡群・地家遺跡

(中部横断自動車道関連)

今年度の整理 西近津遺跡群は平成18～20年度発掘作業、21～26年度整理作業の9年間にわたる調査を終え、本年度報告書を刊行した。地家遺跡は本年度より整理作業を実施した。以下に整理の概要を記す。

西近津遺跡群 報告書は4分冊で構成される。第1分冊は本文編として考古学的事実記載と合わせて、科学分析・鑑定成果をまとめた。また第2分冊は遺構図版、第3分冊は遺物図版、第4分冊は写真図版である。

科学分析と鑑定は発掘調査から整理の期間内に分析対象6種19項目について実施した。ここでは出土骨に関する分析・鑑定結果を紹介する。

平安時代末から鎌倉時代の溝跡からウマとウシの骨が大量に出土している。溝跡は平安時代前半までの集落が埋没後、軸線を北東―南西方向とその直交軸方向に持って掘削され、土地を区画している。

ウマ・ウシ骨について分析・鑑定を依頼した本郷一美氏によれば、ウマやウシは解体後に溝に廃棄された状況と理解される。出土状況にはウマ1個体の上下顎や四肢の骨がまとまって出土している地点と、年齢が異なる複数個体の骨が混在したり、ウシの骨が混ざっていたりする地点がある。

またウマは体高110-120cmの小型馬だったと推定される。歯にもとづく年齢推定ができたのは31個体で、乳歯のみの子ウマから永久歯の白歯列が生え揃う前後(4-4.5才)の若いウマ(15個体、48%)と、歯の咬耗がかなり進んだ13-15才以上(11個体、35%)の年齢群に大別された。5才～10才と推定されたものは5個体だけだった。

このことは西近津遺跡群の近くにウマの生産地があり、子ウマがいたことを示している。また働き盛りの5～10才のウマはおそらく他所に出荷され、繁殖年齢を終える15才前後以上の個体と、何らかの原因で死亡した幼・若獣が主にこの遺跡に廃棄されたと推測される。犬歯の有無で性別を特定できたのはわずか3個体で、2個体がメス、

1個体がオス、いずれも13～17才の個体だった。ウシの基節骨にみられる切痕は、皮を剥ぐ際についた可能性も指摘される。

こうしたウシ・ウマ骨の出土例は、佐久市教育委員会が調査した地点や南に隣接する周防畑遺跡群でも発見されている。今後広域的な溝区画の復元や出土骨の総合的な分析によって、大規模に展開した古代集落の終焉と、再開された中世の土地利用を明らかにし得ることが期待される。

地家遺跡 複数年に渡る調査が本年度終了となり、6月より本格整理を開始した。本年度は記録類と遺物の全体量とその内容の把握を行い、台帳類を整備した。また科学分析と鑑定についても一部実施している。

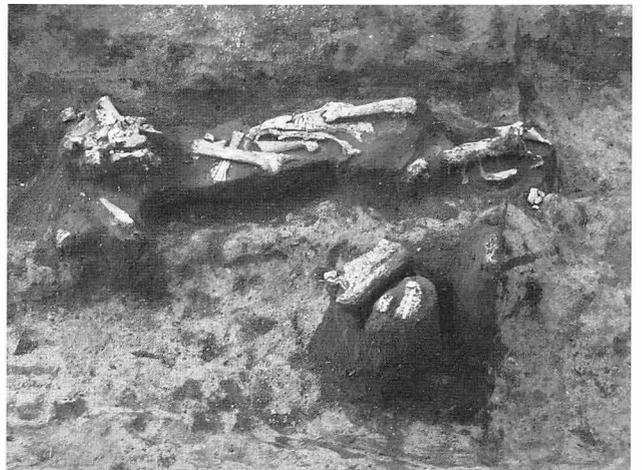


図57 溝跡の骨出土状況(西近津遺跡群)



図58 出土人骨の鑑定指導(地家遺跡)

Ⅳ 普及公開活動の概要

(1) 国補事業の概要

平成 26 年度国宝重要文化財等保存整備費補助金

1 体験学習等メニュー

①夏休み考古学チャレンジ教室の開催

実施日：8月8日（金）・9日（土）

内 容：埋蔵文化財センターの業務を公開し、
文化財保護思想の啓発をはかる。

- ・埋蔵文化財に関わる業務の体験と見学
- ・発掘調査に伴う出土遺物の展示
- ・体験教室（土器接合・拓本・石器体験・石のアクセサリ作りほか）

参加者：300名



図 59 測量を体験する参加者



図 60 まが玉づくりに挑戦

②発掘体験の実施

実施日：5月20日（火）・6月13日（金）・8月18日（月）・9月2日（火）～3日（水）

内 容：遺跡の発掘体験を通して、地域の文化財に関心をもち、大切さを学ぶ。

参加者：南佐久郡北相木小学校6年・

南相木小学校6年 29名

長野市立通明小学校5年1組 30名

長野県立上田染谷高等学校 2名

長野県インターンシップ大学生 3名



図 61 調査研究員とともに遺跡を掘る参加者

2 広報・資料作成メニュー

①信州の遺跡

内 容：県内の遺跡情報を掲載し、文化財を身近に感じ、大切さを考える。

【第5号】 7月31日（金）発行

- ・特集 文化財の指定（国宝指定「仮面の女神」、重要文化財指定「柳沢遺跡出土品」）
- ・最新報告書から（飯田市恒川遺跡群、佐久市森平遺跡、佐久市周防畑遺跡群、大桑村下條Ⅲ遺跡）
- ・埋文ニュース 遺跡解説板 第2弾 「東高遠若宮武家屋敷遺跡」
- ・埋文キーワード 遺物洗浄と注記
- ・最新調査トピックス
(長野市栗田城跡、松本市井川城跡)
- ・ほっと情報（県内の発掘調査状況1～6月）
- ・考古学の窓（翡翠）

【第6号】 平成27年2月20日（金）発行

- ・最新調査成果から（豊丘村三島遺跡、御代田町面替小谷ヶ沢遺跡、長野市長野遺跡群善光寺門前町遺跡、佐久市洞源遺跡）
- ・特集 文化財の活用と情報発信の取り組み（茅

野市 5000 年尖石縄文まつり、埋蔵文化財の新たな情報発信～県庁ロビー展「縄文人クロ」の活躍)

- ・埋文ニュース 口縁が二段の壺と北陸の影響を受けた壺を発見
- ・埋文キーワード 実測
- ・史跡トピックス (幕末の姿としてよみがえる上田城跡、江戸時代の高遠城と全国各地で活躍した高遠石工)
- ・ほっと情報 (県内の発掘調査状況 7～12 月)
- ・考古学の窓 (蘇民将来符)



図 62 信州の遺跡

②かがみちゃんと学ぼう ジュニアこうこがく

内容：新しく歴史を学ぶ県内の小学生を対象に、遺跡や遺物を用いた学習の副教材。

【第 3 号】平成 27 年 2 月 26 日 (木) 発行

- ・古墳を調べよう
- ・馬を飼う
- ・須恵器をつくる
- ・長野県の古墳に行ってみよう
- ・古墳時代の土器

3 案内板・説明板メニュー

設置日：平成 27 年 3 月 20 日 (金)

場 所：大町市常盤 (国営アルプスあづみの公園内アルプス広場)

内 容：大町市山の神遺跡についての遺跡説明板の設置

協 力：国営アルプスあづみの公園事務所 長野県教育委員会 大町市教育委員会



図 63 遺跡説明板

4 埋蔵文化財センター展示会

①速報展の開催

名 称：長野県埋蔵文化財センター速報展「長野県の遺跡発掘 2014」

内 容：平成 25 年度に長野県埋蔵文化財センターが実施した調査遺跡を中心に 23 遺跡約 390 点の出土遺物を展示・公開

○長野県立歴史館会場：

開催日：3 月 21 日 (土)～6 月 1 日 (日)

見学者：13,547 名

埋文体験デー：4 月 27 日 (日)、参加者 140 名



図 64 埋文体験デー受付 (歴史館会場)

○長野県伊那文化会館会場：

開催日：7 月 19 日 (土)～8 月 24 日 (日)

見学者：1,602 名

埋文体験教室：8 月 23 日 (土)、参加者 458 名

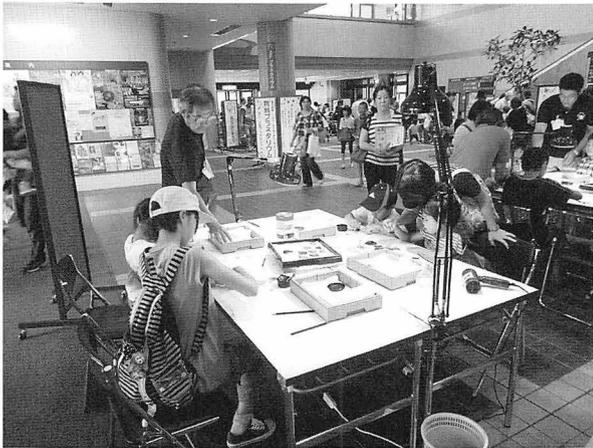


図 65 土器の拓本に挑戦 (伊那文会場)



図 67 「縄文人クロ」の縄文解説のようす

②出土品展の開催

名 称：長野県埋蔵文化財センター出土品展
「掘るしん」

開催日：平成27年 1月23日(金)～2月20日(金)

会 場：長野県埋蔵文化財センター展示室

内 容：平成26年度に長野県埋蔵文化財センターが実施した発掘調査遺跡を中心に8遺跡約100点の出土遺物を展示・公開。

見学者：453名



図 66 出土品展のようす

③長野県庁ロビー展等の開催

名 称：長野県庁見学イベント「夏休み 縄文人になろう」

開催日：7月29日(火)

会 場：長野県庁1Fロビー

④講演会

○速報展「長野県の遺跡発掘2014」

開催日：7月26日(土)

講 演：伊那谷の弥生文化の展開

講 師：市澤英利(飯田市上郷考古博物館館長)



図 68 講演風景

○出土品展「掘るしん」

開催日：平成27年1月25日(日)

講 演：邪馬台国時代の千曲川流域と周辺世界

講 師：石川日出志(明治大学教授)



図 69 講演風景

(2) 展示会・講演会（前述部分は除く）

①長野県埋蔵文化財センター速報展

「長野県の遺跡発掘 2014」

主催：長野県埋蔵文化財センター、長野県立歴史館、長野県伊那文化会館

<長野県立歴史館会場>

○講演会・遺跡報告会

3月22日（土）聴講者 215名

遺跡報告会：「千曲川流域の弥生集落」をテーマに佐久市西近津遺跡群、長野市浅川扇状地遺跡群の調査報告。

講演会：演題「ヒミコ時代の信州と西日本」

講師 工楽善通氏 大阪府狭山池博物館館長



図 70 講演風景

<長野県伊那文化会館会場>

○遺跡報告会

7月26日（土）聴講者 59名

「信州の弥生集落 - 北・南 -」をテーマに辰野町荒神山おんまわし遺跡、長野市塩崎遺跡群調査報告。

(3) 現地説明会

県教育委員会との共催事業として、4遺跡で実施した。参加者は延べ481名であった。

①塩崎遺跡群（長野市）

8月30日（土） 189名 晴

弥生時代中～後期・古墳時代初め頃の竪穴住居跡、古墳時代中期の古墳、平安時代末頃の溝跡などを見学いただいた。玉の原料となるヒスイ原石やウマ全身骨、奈良時代の円面硯など多様な出土品を現場事務所で展示し、多くの見学者に興味深くご覧いただけた。



図 71 説明会風景

②浅川扇状地遺跡群（長野市）

9月28日（日） 139名 晴

古墳から古代の竪穴住居跡をメインに見学していただいた。また、発掘体験も実施し、「何か発見したい！」と熱心に発掘する姿がみられた。

③洞源遺跡（佐久市）

10月4日（土） 98名 晴

佐久地域では初めての発見となった平安時代後半期の製鉄炉跡を見学いただいた。駐車場から見学地までが離れ、急傾斜地を歩いていただくこととなったが、見学者からは、多くの質問を受けるなど、関心の高さが感じられた。



図 72 製鉄炉跡の説明風景

④新城峰遺跡（立科町）

10月25日（土） 55名 晴

尾根上に発見された室町時代の後半期（16世紀）の竪穴状建物跡、掘立柱建物跡、内耳鍋などを見学いただいた。中世集落の一端を示す成果に興味深く聞かれる姿がみられた。

V 研修等の概要

(1) 講師招聘などによる指導

月 日	所 属	職・氏名	指導内容
7月2・3日	人間文化研究機構	理事 平川 南	西近津遺跡群ほかの出土文字資料について
11月19日	文化庁記念物課	主任調査官 欄宜田佳男	浅川扇状地遺跡群、塩崎遺跡群の発掘調査について
12月3日	信州大学	教授 原山 智	西近津遺跡群の石器石材鑑定について
12月11日			鬼釜遺跡ほかの石器石材鑑定について
12月15～17日	京都大学	名誉教授 茂原信生	西近津遺跡群ほかの出土骨について
	総合研究大学院大学	准教授 本郷一美	
	獨協医科大学	技術職員 櫻井秀雄	
2月9・10日	愛知学院大学	教授 藤澤良祐	鬼釜遺跡ほかの中世土器・陶磁器について
2月23・24日	元金沢城調査研究室	田嶋明人	浅川扇状地遺跡群出土土器について
3月3日	朝日新聞社	編集委員 宮代栄一	鬼釜古墳出土の馬具について

(2) 全埋協等への参加

期 日	会 議 名	開催地	参 加 者
4月9日 1月9日 3月24日	指導主事・専門主事会議	長野市 塩尻市 長野市	近藤尚義 栗林幸治
4月21日	公共開発事業に伴う埋蔵文化財保護に係る関係者会議	塩尻市	西山克己 岡村秀雄
5月16日	公社公団等連絡会議新規採用職員研修	長野市	高山いず美
6月16日	文化財保護行政市町村担当者会議	長野市	西山克己 藤原直人 若林 卓
6月19・20日	全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会	盛岡市	会津敏男 多城 哲 岡村秀雄 町田勝則 山本希一
10月16・17日	全国埋蔵文化財法人連絡協議会中部・北陸ブロック連絡会	金沢市	会津敏男 大竹憲昭
11月13・14日	関東甲信越静地区埋蔵文化財行政担当者職員共同研修協議会	横浜市 小田原市	河西克造
11月20日	関東甲信越静地区埋蔵文化財行政担当者会議	新宿区	岡村秀雄
11月25日	全国埋蔵文化財法人連絡協議会「全国埋蔵文化財調査情報交換会」	中央区	多城 哲 大竹憲昭 山本希一
11月27・28日	全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会	奈良市	西山克己
1月29日	文化財保護行政市町村担当者会議	千曲市	町田勝則 綿田弘実 栗林幸治 黒岩 隆 高山いず美 福井優希
2月17・18日	博物館等関係職員研修会	千曲市	大竹憲昭 近藤尚義 川崎 保

(3) 研修および資料調査

期 日	参加者	場 所	内 容
6月18日	岡村秀雄 町田勝則	多賀城市	多賀城市八幡沖遺跡現地見学
9月3～5日	鶴田典昭	青森市	全国埋蔵文化財担当職員等講習会
10月7～16日	鈴木時夫	奈良県	奈良文化財研究所 専門研修「保存科学基礎Ⅰ（金属製遺物）課程」
	鶴田典昭 黒岩 隆	淡路市ほか	淡路市五斗長垣内遺跡資料調査ほか

(4) 学会・研修会などでの発表

月 日	派遣先	担当者	内 容
5月20日	長野県蓼科高等学校	西山克己	地域開放講座「蓼科学」講師
6月18日	長野カルチャーセンター	西山克己	「シナノの古墳」（「史跡・建造物から学ぶ信濃の歴史」）
6月28日	長野県立歴史館	西山克己	「シナノの積石塚古墳」（考古学講座）
7月20・21日	香芝市二上山博物館友の会 ふたかみ史遊会	廣田和穂	「2・3世紀、北信濃の集落と墳墓」（邪馬台国シンポジウム14「邪馬台国時代の甲・信と大和」）
2月8日	篠ノ井地区住民自治協議会塩崎地区	市川隆之	第3回塩崎の歴史講演会「遺跡からみた中世の塩崎」
2月22日	たてしな町民歴史公開講座	廣瀬昭弘	「新城峰遺跡発掘調査報告」
3月7日	佐久穂町公民館	川崎 保	「高速道建設にともなう小山寺窪遺跡の発掘調査成果」
3月11日	篠ノ井地区住自協	市川隆之	「平成26年度塩崎遺跡群の調査成果について」

(5) 市町村・関係機関などへの協力

月 日	依頼元	担当者	協力・指導内容
4月1日～	明治大学研究知財事務局	大竹憲昭	「明治大学黒耀石研究センター運営委員会」委員委嘱
4月17日	長野県教育委員会	会津敏男 多城 哲 大竹憲昭 村山清治 西山克己 岡村秀雄 町田勝則	三所会議
5月17・18日	弘前大学人文学部	大竹憲昭	「川久保・宮沖遺跡の炭化米」のDNA分析結果の日本考古学協会第80回会場での結果報告
5月27日 7月3日 8月28日 9月18日	長野県教育委員会	会津敏男 多城 哲 大竹憲昭 西山克己 岡村秀雄 町田勝則	埋蔵文化財保護業務等の人材確保の方策検討
5月28日 8月28日	長野県教育委員会	会津敏男 多城 哲 大竹憲昭 西山克己 岡村秀雄 町田勝則	県立歴史館のあり方検討会
6月3日	千曲市教育委員会市文化財調査員会	西山克己 市川隆之	長野市塩崎遺跡群発掘調査の現地見学
6月11日	長野県教育委員会	大竹憲昭 町田勝則	長野県文化財活用活性化実行員会

月 日	依頼元	担当者	協力・指導内容
6月28日	松本市庄内地区公民館	町田勝則 綿田弘実	松本市井出川南遺跡の現地見学
7月4日	氷鉋古文書同好会	大竹憲昭 市川隆之	長野市塩崎遺跡群発掘調査の現地見学
7月8日	信州大学教育学部	西山克己 市川隆之	長野市塩崎遺跡群発掘調査の現地見学
7月9日	長野県立歴史館	大竹憲昭	石膏による土器の補強復元技術の指導について
8月5日	立科町教育委員会 立科町公民館	廣瀬昭弘 大澤泰智	立科町新城峰遺跡の現地見学、発掘体験
9月5日	東御市教育委員会	大竹憲昭 市川隆之	長野市塩崎遺跡群発掘調査の現地見学
9月10日	長野市立塩崎小学校	大竹憲昭 市川隆之	長野市塩崎遺跡群発掘調査の現地見学
9月22日	鹿児島大学	西山克己 市川隆之	長野市塩崎遺跡群発掘調査の見学
9月22日 24～27日 2月2日～6日	東北大学	水澤教子	非常勤講師委嘱 集中講義「博物館資料保存論」
9月24日	(公財) 埼玉県埋蔵文化財 調査事業団	大竹憲昭 市川隆之	長野市塩崎遺跡群発掘調査の現地見学
11月2日	筑北村教育委員会	柳澤 亮	筑北村考古資料館体験イベント
12月7日	信州大学	大竹憲昭	明治大学-信州大学連携協定第1回講演会「信州の黒曜石研究のいま」の名義後援
12月24日 3月12日	長野県教育委員会	大竹憲昭	長野県の埋蔵文化財行政の整備充実に関する協力者会議
1月23日 3月6日	高森町教育委員会	綿田弘実	角田原遺跡他の整理作業指導
2月17日～ 3月20日	小川村教育委員会	大竹憲昭 高津希望	筏遺跡出土土器の修復について

(6) 学校関係への協力・指導

期 日	学校名	内 容	担当者
5月20日	北相木村立北相木小学校 南相木村立南相木小学校	社会科学見学（体験学習）	大竹憲昭 市川隆之
	長野市立通明小学校	総合的な学習の時間（施設見学）	大竹憲昭
6月13日		総合的な学習の時間（体験学習）	大竹憲昭 市川隆之
7月8・9日	長野市立篠ノ井西中学校	職場体験	大竹憲昭 市川隆之
7月28日～8月1日 8月4～8日	長野工業高等専門学校	実務訓練（インターンシップ）	大竹憲昭 西 香子
8月5～7日	上田市立川辺小学校	職員研修	廣瀬昭弘
9月26日	長野市立篠ノ井東中学校	出前授業	西山克己 岡村秀雄
9月11日	中野市立倭小学校	出前授業	廣田和穂
9月2～4日	県教育委員会講座	実務訓練（インターンシップ）	大竹憲昭 西 香子

期 日	学校名	内 容	担当者
10月8・9日	長野市立広徳中学校	職場体験	大竹憲昭 市川隆之
10月9・10日	長野市立犀陵中学校		
	長野市立松代中学校		
10月22・23日	長野市立川中島中学校		
10月23・24日	長野市立篠ノ井東中学校		

(7) 資料の貸し出し

貸与先	貸与資料	貸与期間	備 考
佐久市立中佐都小学校	佐久市西近津遺跡群の大型竪穴住居跡写真ほか	デジタルデータを提供	校舎内郷土資料館及び校舎内で展示 小学校ホームページ「中佐都の宝」 上で公開
弘前大学人文学部	中野市宮沖遺跡発掘調査報告書 掲載図、DNA分析対象とした宮 沖遺跡炭化米写真ほか	掲載許可	研究報告書「日本の出土米Ⅰ」に掲載
香芝市二上山博物館	佐久市西近津遺跡群国内最大級の 竪穴住居跡、篠ノ井遺跡群弥 生時代後期土器	掲載許可	ふたかみ邪馬台国シンポジウム14 「邪馬台国時代の甲・信と大和」資料 集巻頭図版等に掲載
(株)みすず総合コンサル タント	飯田市神之峯城跡ラジコンヘリ による空中撮影写真	デジタルデータを提供	ラジコンヘリによる斜め撮影3D計測シ ステムの説明資料としてカタログに掲載
(有)測地	佐久市西近津遺跡群大型竪穴住 居跡ほか	デジタルデータを提供	中小企業ものづくり・商業・サービ ス革新事業補助金申請に伴う説明用 写真に利用
長野市桐原区	長野市浅川扇状地遺跡群調査写 真、筆立て付円面硯ほか	掲載許可	広報「桐原」（平成26年9月15日発 行）に掲載
御代田町浅間縄文 ミュージアム	佐久市周防畑遺跡群出土玉、銅 釧、管玉ほか	9月17日～12月16日	秋季企画展「弥生展」での展示、印 刷物、ホームページへの掲載
(株)雄山閣	千曲市屋代遺跡群SB5325ほかの 写真	掲載許可	「縄文時代における土器の移動と交 流」の本文挿図として掲載
(株)梓書院	「例会報告長野県中野市柳沢遺跡 の発掘調査」『考古学雑誌』第96 巻第3号 pp50-62	掲載許可	「季刊邪馬台国」123号（平成26年 10月刊行）に掲載
長野県立歴史館	長野市塩崎遺跡群弥生時代中期 初頭土器出土状況の写真	デジタルデータを提供	平成27年度上半期「催し物案内」 に掲載
(一社)日本考古 学協会	南牧村矢出川遺跡群出土石器の 写真	デジタルデータを提供	『日本考古学年報』66（2013年度版） 巻頭写真に掲載
千曲市森將軍塚古 墳館	長野市塩崎遺跡群SH1009全景ほ かの写真	デジタルデータを提供	企画展「科野の馬と馬具」の展示及 びポスター・パンフレット等に掲載
南相木村教育委員 会	佐久穂町奥日影遺跡の須恵器窯 跡写真	デジタルデータを提供	『南相木村誌』歴史編 原始・古代・ 中世に挿図として使用
立科町教育委員会	立科町新城峰遺跡空中撮影写真	デジタルデータを提供	立科町ふるさと交流館「芦田宿」ジ オラマ模型システムで画像を紹介
長野県立歴史館	長野市浅川扇状地遺跡群調査風 景写真ほか 長野市塩崎遺跡群礫床木棺墓群 写真ほか	デジタルデータを提供	「速報長野県の遺跡発掘2015」に係 るポスター・チラシ等広報用印刷物 の写真等への掲載

VI 組織・事業の概要

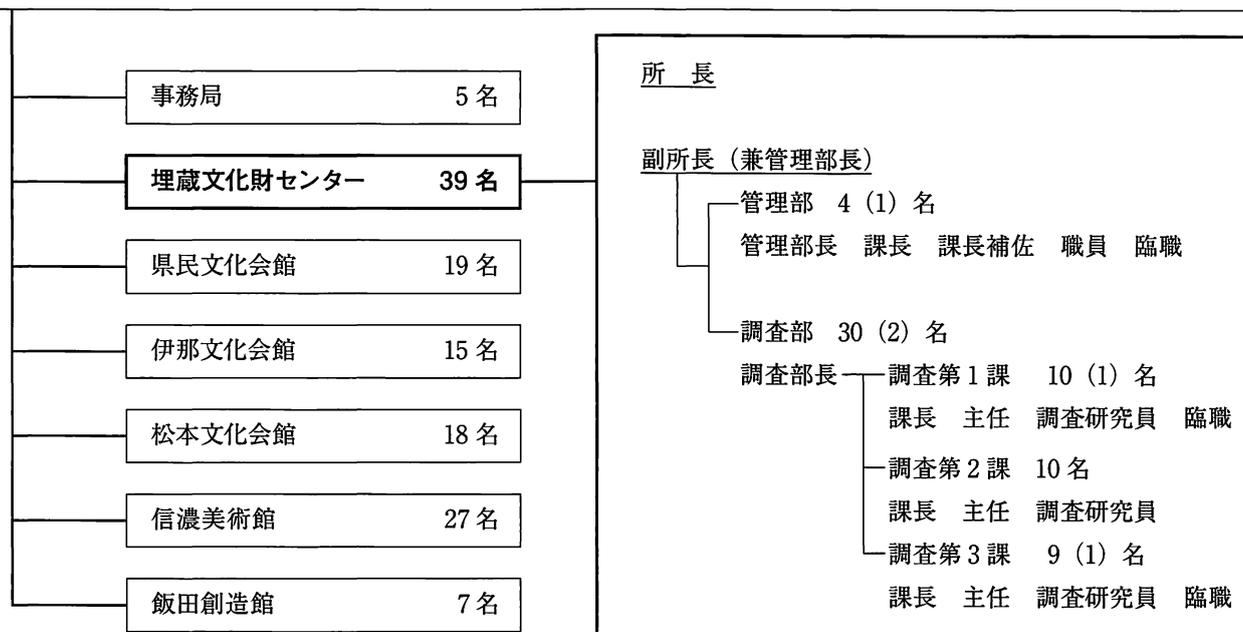
(1) 組織

一般財団法人長野県文化振興事業団

【評議員】 3名

【役員】 10名

理事長	副理事長（県芸術文化協会会長）	常務理事
理事	県民文化会館長 伊那文化会館長 松本文化会館長 駒ヶ根高原美術館顧問	
	サイトウ・キネン・フェスティバル松本総合コーディネーター 信濃美術館長 飯田市上郷考古博物館長	
監事	2名	



(2) 職員（事務系臨時職員を除く）

H27. 3. 10現在

所長	会津敏男	
副所長	多城 哲	
管理部	管理部長（兼）	多城 哲
	管理課長	村山清治
	管理部部长補佐	山本希一
	主 事	戸谷良子 日向 育
調査部	調査部長	大竹憲昭
	調査課長	〔第1課〕 西山克己 〔第2課〕 岡村秀雄 〔第3課〕 町田勝則
	主任調査研究員	〔第1課〕 市川隆之 河西克造 〔第2課〕 廣瀬昭弘 〔第3課〕 綿田弘実
	調査研究員	〔第1課〕 伊藤友久 近藤尚義 川崎 保 水澤教子 内堀 団 高津希望 高山いづ美 〔第2課〕 上田 真 藤原直人 若林 卓 寺内貴美子 長谷川桂子 柳澤 亮 栗林幸治 大澤泰智 〔第3課〕 鶴田典昭 黒岩 隆 西 香子 廣田和穂 鈴木時夫 福井優希
	調 査 員	〔第3課〕 大久保邦彦

(3) 事業

経費はH27. 3. 22現在

事業名		委託事業者	事業個所	事業内容	経費(千円)	
受託事業	調査・整理・報告	中部横断自動車道	国土交通省 関東地方整備局	佐久市 洞源遺跡ほか	発掘作業 整理作業 報告	175,530
		一般国道18号 (坂城更埴バイパス)	国土交通省 関東地方整備局	長野市 塩崎遺跡群	発掘作業	200,981
		一般国道474号 飯喬道路	国土交通省 中部地方整備局	飯田市 神之峯城跡ほか	整理作業	47,071
		県営中山間総合整備	長野地方事務所	高山村 黒部遺跡	発掘作業	10,710
		県道高田若槻線	長野建設事務所	長野市 浅川扇状地遺跡群	発掘作業 整理作業	97,723
		県道豊田中野線	北信建設事務所	中野市 琵琶島遺跡ほか	発掘作業 整理作業	24,948
		県道三水中野線		中野市 南大原遺跡	整理作業	22,680
		県道出川双葉線	松本建設事務所	松本市 出川南遺跡	発掘作業	32,136
		通常砂防		松本市 海岸寺遺跡	発掘作業	24,392
		一般国道254号 (宇山バイパス)	佐久建設事務所	立科町 新城峰遺跡	発掘作業	28,294
研修等	調査研究員研修事業等	県教育委員会	広報誌の発刊	研修等		
自主事業	普及啓発等	3月：長野県の遺跡発掘2014 長野県立歴史館 7月：長野県の遺跡発掘2014 県伊那文化会館 8月：夏休み考古学チャレンジ教室 1月：出土品展「掘るしん」長野県埋蔵文化財センター 随時：遺跡の現地説明会 広報誌等の発刊 「信州の遺跡」5・6号、「ジュニア考古学」 調査遺跡説明板設置(大町市)			1,869	

長野県埋蔵文化財センター年報31 2014

発行日 平成27年3月31日

編集発行 (一財)長野県文化振興事業団

長野県埋蔵文化財センター

〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田963-4

電話:026-293-5926 FAX:026-293-8157

E-mail:info@naganomaibun.or.jp

印刷 三和印刷株式会社

